

# CLAIR REPORT No.575

## シンガポールのスタートアップ支援政策

Clair Report No. 575(March 19, 2026)

(一財)自治体国際化協会 シンガポール事務所



一般財団法人

**自治体国際化協会**

## 「CLAIR REPORT」の発刊について

当協会では、調査事業の一環として、海外各地域の地方行財政事情、開発事例等、様々な領域にわたる海外の情報を分野別にまとめた調査誌「CLAIR REPORT」シリーズを刊行しております。

このシリーズは、地方自治行政の参考に資するため、関係の方々に地方行財政に係わる様々な海外の情報を紹介することを目的としております。

内容につきましては、今後とも一層の改善を重ねてまいりたいと存じますので、御意見等を賜れば幸いに存じます。

本誌からの無断転載はご遠慮ください。

問い合わせ先

〒102-0083 東京都千代田区麹町 1-7 相互半蔵門ビル

(一財) 自治体国際化協会 総務部 企画調査課

TEL : 03-5213-1722

FAX : 03-5213-1741

E-Mail: [kikaku@clair.or.jp](mailto:kikaku@clair.or.jp)

## はじめに

近年、日本国内においても地域経済の持続的発展を目指し、スタートアップ支援に力を入れる自治体が増えている。人口減少や産業構造の変化が進む中で、新たな雇用や付加価値を生み出すスタートアップの存在は、地域社会にとってますます重要な意味を持つようになってきている。しかし、多くの自治体ではまだ取組の歴史が浅く、支援の枠組みや体制づくりは発展途上にあるのが実情である。こうした状況において、既に世界的なスタートアップ拠点として評価されているシンガポールの事例は、日本の自治体にとって学ぶべき示唆に富んでいる。

シンガポールは、国土が狭く資源に乏しいという制約を抱えながらも、経済発展の初期段階から「人材育成」「外国資本の誘致」「国際金融センター化」といった国家戦略を明確に打ち出してきた。特に1990年代以降は技術集約型産業の育成を重視し、研究開発拠点の形成や高度人材の確保に注力している。その延長線上で、スタートアップは新産業の創出と経済の多角化を担う存在として位置づけられ、政府主導で包括的な支援策が展開されてきた。

具体的には、資金支援や税制優遇にとどまらず、共同オフィスやアクセラレーターの整備、研究機関との連携促進、海外市場へのアクセス支援など、多角的なエコシステム構築が進められている。また、シンガポール経済開発庁やシンガポール企業庁といった政府機関が一体となってスタートアップ支援を推進しており、国家全体の戦略として位置づけられている点に特徴がある。

こうした取組の成果として、シンガポールは「アジアのハブ」として多国籍企業や投資家を惹きつけるとともに、周辺地域へのゲートウェイとしての役割も担っている。この背景には、単なる産業政策にとどまらず、教育政策、移民政策、都市計画といった幅広い分野と連動した国家戦略がある。

本レポートでは、シンガポールにおけるスタートアップ支援政策の特徴と発展の経緯を整理し、日本の自治体が地域特性に応じたスタートアップ支援を検討する際に参考となる戦略を示唆することを目的とする。資源制約を克服し、政策的にスタートアップ・エコシステムを形成してきたシンガポールの経験が、地域経済の持続的発展を模索する日本の自治体にとって参考となることを期待したい。

一般財団法人自治体国際化協会シンガポール事務所長

## 目次

はじめに.....	3
概要.....	2
第1章 シンガポールのスタートアップ支援政策を取り巻く概況.....	3
第1節 スタートアップ支援につながるシンガポールの経済、科学技術に関するビジョン.....	3
第2節 スタートアップ支援を担う主要な政府機関.....	6
1 内閣.....	6
2 首相府.....	6
3 貿易産業省 (Ministry of Trade and Industry: MTI) .....	7
第3節 研究・イノベーション・企業計画.....	8
1 Research, Innovation and Enterprise 2025 Plan.....	8
2 Research, Innovation and Enterprise 2030 Plan.....	11
第2章 シンガポール政府が行うスタートアップ支援.....	13
第1節 Startup SG.....	13
1 Startup SG Founder.....	13
2 Startup SG Tech.....	17
3 Startup SG Loan.....	21
4 Startup SG Accelerator.....	22
5 Startup SG Infrastructure.....	23
6 Startup SG Network.....	27
7 Startup SG Equity.....	28
第2節 海外展開支援.....	32
1 Global Innovation Alliance.....	32
2 Stage One.....	35
第3章 シンガポールの支援政策の成果.....	37
第1節 Forte Biotech 社の事例.....	37
1 企業の事業概要.....	37
2 利用した Startup SG 関連の支援と効果.....	37
第2節 Aliena 社の事例.....	38
1 企業の事業概要.....	38
2 利用した Startup SG 関連の支援と効果.....	38
第3節 ACKTEC Technologies 社の事例.....	38
1 企業の事業概要.....	38
2 利用した Startup SG 関連の支援と効果.....	39
まとめ.....	40
参考文献、資料、ウェブサイト一覧.....	41

## 概要

### 第1章 シンガポールのスタートアップ支援政策を取り巻く概況

スタートアップ支援につながる、経済発展、科学技術振興に関する政府の考え方をまとめるとともに、スタートアップ支援を担う主要な政府機関を紹介する。また、シンガポールの科学技術政策の中核として、研究・イノベーション・企業の能力を強化し、国家的課題と長期的競争力の確保を図るシンガポールの包括的計画もあわせて紹介する。

### 第2章 シンガポール政府が行うスタートアップ支援

シンガポールにおける **Startup SG** の多様な支援政策を包括的に整理する。創業初期段階向けの資金助成や融資制度 (**Founder, Loan**)、研究開発促進支援 (**Tech**)、成長加速プログラム (**Accelerator**)、施設・インフラ提供 (**Infrastructure**)、事業ネットワーク形成支援 (**Network**)、及び政府・民間による出資スキーム (**Equity**) などを対象とする。各施策の支援内容、対象企業などをまとめ、総合的にスタートアップの成長促進とエコシステム形成に果たす役割について紹介する。併せて、後半では **Global Innovation Alliance** と **Stage One** を取り上げ、スタートアップの海外展開支援について紹介する。

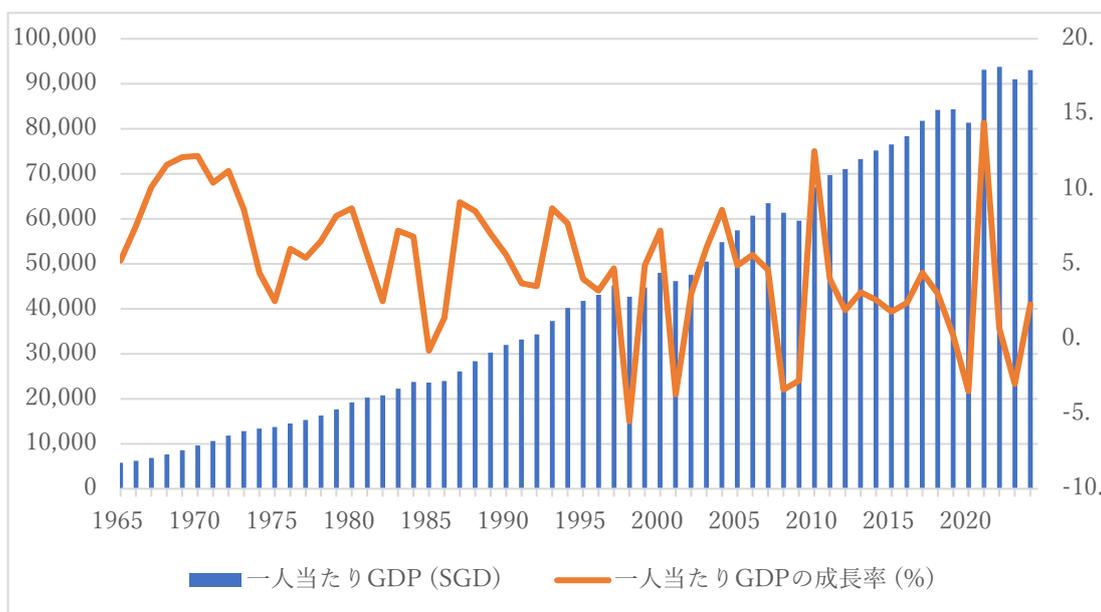
### 第3章 シンガポールの支援政策の成果

第2章で紹介した支援制度を利用したスタートアップの事例を取り上げることで、具体的な支援内容や資金助成の規模、また、支援制度がどのように企業の成長につながったかを紹介する。

## 第1章 シンガポールのスタートアップ支援政策を取り巻く概況

### 第1節 スタートアップ支援につながるシンガポールの経済、科学技術に関するビジョン

シンガポールは、1965年の独立以降、外資導入を軸とした国家主導型の経済開発戦略により急速な成長を遂げ、2024年のシンガポールの1人当たりGDPはUS\$9万3,084で、世界第4位（アジア第1位）となるまでに発展した。



(図1-1) 実質GDP成長率と一人当たりのGDPの推移<sup>1</sup>

この経済発展の基盤には、政府が主導する産業インフラ整備、外資に対する寛容な投資環境、海外市場への輸出を前提とした産業構造構築といった、明確な国家戦略が存在していた。こうした政策により、IT、バイオ、金融、通信など多様な分野において地域ハブとしての地位が確立された。<sup>2</sup>

さらに、政治的安定性、汚職の少なさ、健全な財政運営といったマクロ的要因は、シンガポールを世界有数の低リスク国家として位置づけ<sup>3</sup>、外資企業だけでなく高度人材にとっても魅力的な拠点となった。こうした環境は、技術集約型産業の成長を支える制度的基盤として機能している。<sup>4</sup>

加えて、政府は経済発展を持続させるため、研究開発（R&D）及び科学技術政策を

<sup>1</sup> Department of Statistic Singapore, SingStat Table Builder,

[<https://tablebuilder.singstat.gov.sg/table/TS/M015891>]（最終検索日 2026年1月6日）により筆者作成

<sup>2</sup> （一財）自治体国際化協会、『シンガポールの政策令和6年度（2024年度）改訂版』p.140, 2025年

<sup>3</sup> （一財）自治体国際化協会、『シンガポールの政策令和6年度（2024年度）改訂版』p.140, 2025年

<sup>4</sup> EDB, Build Your A-Team and Seize Global Opportunities, [<https://www.edb.gov.sg/en/business-insights/insights/build-your-a-team-and-seize-global-opportunities.html>]（最終検索日 2026年1月6日）

国家戦略の中心に据えてきた。その特徴は、(1) 研究・イノベーション政策の体系的な策定、(2) 国家的インパクトを志向した研究イニシアティブへの集中的投資、(3) 外国人研究者の積極的な誘致を含む人材育成、(4) 知識集約型・イノベーション主導型経済への転換を目的とした研究課題の統合的調整に整理される。<sup>5</sup>これらの政策形成と実行は、貿易産業省 (MTI) およびその法定機関である経済開発庁 (EDB) などが中核を担ってきた。<sup>6</sup>

このような、インフラ整備、外資誘致、人材戦略、科学技術への投資という国家主導の総合的政策は、単に製造業中心の経済発展を支えてきただけではない。知識集約型経済への構造転換を促し、技術・研究開発を核とした産業エコシステムを形成することで、国内での新規事業創出を自然に促す環境が整えられた。この長期的な経済・科学技術政策の蓄積の上に、現在シンガポール政府が展開するスタートアップ支援策、例えば Startup SG、研究開発拠点の整備、リスクマネー供給、起業人材育成などが成立している。<sup>7 8</sup>

これらの政策的蓄積により、シンガポールでは、スタートアップが成長しやすい環境が総合的に整えられている。具体的には、研究機関や大学との連携が可能な高度な R&D インフラ、グローバル企業が集積するビジネス環境<sup>9</sup>、外国人起業家にも開かれた法制度<sup>10</sup>、安定した金融市場、起業資金へのアクセスを容易にする政府系ファンドやベンチャーキャピタル (VC) ネットワークなどが挙げられる。加えて、英語を基軸とした国際都市<sup>11</sup>としての特性やビジネスの透明性の高さは、世界中の起業家・投資家を惹きつけており、スタートアップにとっての競争優位性を形成している。<sup>12</sup>

世界知的所有権機構 (WIPO : World Intellectual Property Organization) が研究開発支出額、VC 投資額・件数、特許出願状況等を評価し毎年公表する Global Innovation Index (GII) でシンガポールは組織・機関、人材・研究、ビジネス環境が評価され、過去 15 年 10 位を維持し、2025 年には世界 5 位と評価を受けた。また、2024 年にはシンガポールは世界の主要企業拠点の中で世界 6 位のベンチャーキャピタル資金を調達し、世界的にスタートアップが成長しやすい環境であると評価されているといえる。

---

<sup>5</sup> (一財) 自治体国際化協会, 『シンガポールの政策令和 6 年度 (2024 年度) 改訂版』 p.218, 2025 年

<sup>6</sup> (一財) 自治体国際化協会, 『シンガポールの政策令和 6 年度 (2024 年度) 改訂版』 p.140, 2025 年

<sup>7</sup> NRF, Research, Innovation and Enterprise 2025 Plan, [<https://file.go.gov.sg/rie-2025-handbook.pdf>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>8</sup> NRF, Research, Innovation and Enterprise 2030 Plan Factsheets, [<https://file.go.gov.sg/rie2030factsheet.pdf>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>9</sup> EDB, Business-friendly environment, [<https://www.edb.gov.sg/en/why-singapore/business-friendly-environment.html>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

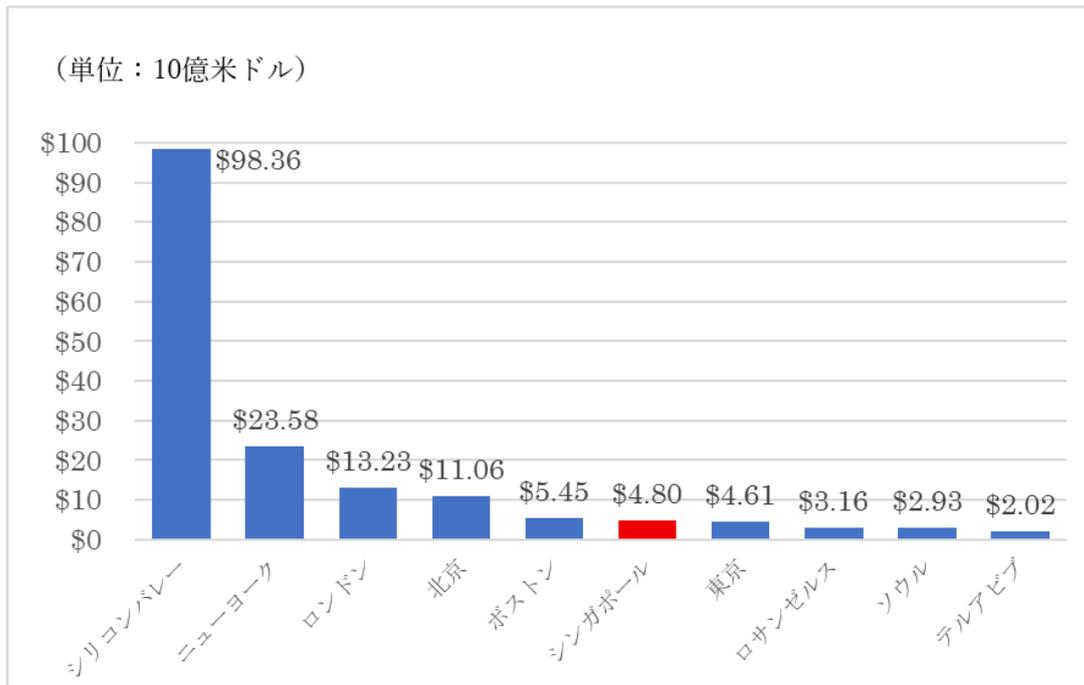
<sup>10</sup> MOM, EntrePass, [<https://www.mom.gov.sg/passses-and-permits/entrepass>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>11</sup> (一財) 自治体国際化協会, 『シンガポールの政策令和 6 年度 (2024 年度) 改訂版』 p.152, 2025 年

<sup>12</sup> EDB, Business-friendly environment, [<https://www.edb.gov.sg/en/why-singapore/business-friendly-environment.html>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

(表 1 - 1) Global innovation Index (GII) 2025 年版<sup>13</sup>

ランキング	国・地域	組織・機関	人材・研究	インフラ	市場の洗練度	ビジネスの洗練度	知識・技術のアウトプット	クリエイティブなアウトプット
1	スイス	3	6	5	3	5	2	1
2	スウェーデン	12	3	4	9	2	4	2
3	米国	16	13	32	1	1	3	5
4	韓国	20	1	7	5	4	9	4
<b>5</b>	<b>シンガポール</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>19</b>	<b>6</b>	<b>3</b>	<b>7</b>	<b>15</b>
6	英国	25	7	23	4	17	5	3
7	フィンランド	5	5	3	11	12	8	16
8	オランダ	11	14	30	12	7	10	6
9	デンマーク	2	11	8	16	11	13	9
10	中国	44	20	6	13	8	1	14
⋮								
12	日本	22	18	17	10	6	12	17



(図 1 - 2) 2024 年世界スタートアップ拠点別ベンチャーキャピタル資金調達額<sup>14</sup>

<sup>13</sup> WIPO, Global Innovation Index 2025 [<https://www.wipo.int/web-publications/global-innovation-index-2025/en/index.html>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日) より筆者作成

<sup>14</sup> ESG, SINGAPORE VENTURE FUNDING LANDSCAPE 2024 A Nine Month Report [[https://www.startupsg.gov.sg/public/inline-images/EntSG\\_9M\\_2024\\_Venture%20Funding\\_Landscape\\_v1.pdf](https://www.startupsg.gov.sg/public/inline-images/EntSG_9M_2024_Venture%20Funding_Landscape_v1.pdf)] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日) より筆者作成

## 第2節 スタートアップ支援を担う主要な政府機関

この節では、前節で述べたシンガポールのビジョンを実行する主な政府機関を紹介する。

### 1 内閣<sup>15</sup>

シンガポールでは議院内閣制を採用しており、内閣は国会に対して連帯して責任を負う。内閣は、政府の政策と行政運営、国会の召集について責任を持ち、現在の内閣は首相を含め 18 名の閣内大臣により構成されている。

#### (1) 研究・革新・企業会議 (Research, Innovation & Enterprises Council : RIEC)

16

2006 年設置。前首相であり、現上級大臣であるリー・シェンロン氏が議長を務めるとともに、各大臣、産業界・科学技術分野の著名人等で構成される会議。シンガポールを高い技術開発能力を持つ知識集積型社会に転換するという長期的な戦略を持つ。研究、イノベーション、企業戦略について議論し、「国家の研究およびイノベーション戦略について内閣に助言すること」「研究、イノベーション、企業活動に対するシンガポールの取組を牽引すること」が主な目的である。なお、メンバーは 3 年任期で任命される。

### 2 首相府<sup>17</sup>

首相をサポートし、助言するために 6 つの部局及び 2 つの法定機関から構成される組織。科学技術分野における具体的な政策、計画、戦略の立案等を担う国家研究財団も構成機関の一つ。

#### (1) 国家研究財団 (National Research Foundation : NRF)<sup>18</sup>

2006 年設置。首相府内の 6 つの部局の一つであり、シンガポールを科学技術のハブにすることを目的とする組織。NRF は、研究開発 (Research & Development : R&D) の国家的な方向性を示し、研究、イノベーション、企業活動のための政策、計画、戦略を策定している。また、戦略的な取組に資金を提供し、研究人材の育成を通じて研究開発能力を向上させる役割も果たしている。

---

<sup>15</sup> (一財) 自治体国際化協会, 『シンガポールの政策令和 6 年度 (2024 年度) 改訂版』 p.223, 2025 年 を一部更新し紹介

<sup>16</sup> (一財) 自治体国際化協会, 『シンガポールの政策令和 6 年度 (2024 年度) 改訂版』 p.223, 2025 年

<sup>17</sup> (一財) 自治体国際化協会, 『シンガポールの政策令和 6 年度 (2024 年度) 改訂版』 p.223, 2025 年

<sup>18</sup> (一財) 自治体国際化協会, 『シンガポールの政策令和 6 年度 (2024 年度) 改訂版』 p.224, 2025 年

### 3 貿易産業省 (Ministry of Trade and Industry : MTI) <sup>19</sup>

1979年設立。経済成長、雇用創出をミッションとし、経済成長や産業発展に結びつく研究開発を主導する役割を担っている。同省の役割は政策の立案・調整であり、具体的なプログラムの立案や実施は、同省傘下の科学技術研究庁、経済開発庁、企業庁等が担当している。

#### (1) 経済開発庁 (Economic Development Board : EDB) <sup>20</sup>

1961年に設立された産業政策を担当する投資促進機関であり、持続可能な経済成長を創出し、活気あるビジネス環境と質の高い雇用機会をシンガポールに提供することを目的としている。

企業誘致のための優遇税制の整備等、いわゆる基盤整備やバックアップ的な役割を担っているほか、民間部門の研究開発への支援や投資、産業開発も担当している。これらの活動は、シンガポールの年間GDPの3分の1以上を占めるとされている。

#### (2) 企業庁 (Enterprise Singapore : ESG) <sup>21</sup>

2018年に国際企業庁と規格生産性革新庁が合併し設立。規格生産性革新庁が蓄積した国内産業、企業の知識と国際企業庁の内外ネットワークを一体化させた組織で、企業の技術革新、新市場シェアの獲得、海外市場への展開、経営陣の能力向上など、企業を総合的に支援している。

また、製品やサービスへの信頼を構築するために品質と基準を強化することで、シンガポールを主要なスタートアップ及び貿易のハブとして確立させるための取組も行っている。

#### (3) 科学技術研究庁 (Agency for Science, Technology and Research : A\*STAR)

2002年設立。経済成長や雇用創出を促進するだけでなく、医療、都市生活、持続可能性における社会的成果を向上させることで生活の質を向上させるため、傘下の研究所で研究開発を実施するとともに、企業への知識や技術の提供、奨学金等による研究者の育成等を行う。<sup>22</sup>スタートアップ支援においては、ディープテック分野の起業促進、技術移転が中心的な役割である。研究成果を商業化するため、技術移転機関「Accelerate Technologies」を通じて特許のライセンス化やスピンオフ創業を支援している。また、A\*StartCentralを運営し、研究者や起業家に実験設備、メンタリ

---

<sup>19</sup> (一財)自治体国際化協会、『シンガポールの政策令和6年度(2024年度)改訂版』p.224, 2025年

<sup>20</sup> (一財)自治体国際化協会、『シンガポールの政策令和6年度(2024年度)改訂版』p.224, 2025年

<sup>21</sup> (一財)自治体国際化協会、『シンガポールの政策令和6年度(2024年度)改訂版』p.224, 2025年

<sup>22</sup> (一財)自治体国際化協会、『シンガポールの政策令和6年度(2024年度)改訂版』p.224, 2025年

ング、投資家ネットワークを提供するなど、インキュベーション機能を果たす。<sup>23</sup>

#### (4) JTC コーポレーション (JTC)

JTC は 1968 年にジュロン地域を工業地帯として開発するために設立されたシンガポールの産業インフラを整備する政府機関で、工業団地やビジネスパークの造成・管理をする。<sup>24</sup>2015 年に設立した LaunchPad @ One North は、研究開発型やディープテック系スタートアップを中心に、ラボ・プロトタイピング施設・オフィスなどを備えた“プラグ&プレイ型”の拠点として機能している。ここでは多様な企業・研究機関・投資家が集積し、実証実験や共同開発を行いやすいエコシステムが形成されている。また、JTC はスタートアップと大企業を結ぶ LINK プログラムを通じて、資金調達・事業提携・海外展開の機会を提供し、成長を加速させている。さらに、Enterprise Singapore や EDB と連携し、海外スタートアップ誘致やディープテック支援を目的とした Stage One を 2025 年に開設するなど、国際展開を視野に入れた支援も強化している。これらの取組により、JTC は物理的インフラとビジネスネットワークの両面からシンガポールのスタートアップ・エコシステムを支える重要機関となっている。<sup>25</sup>

### 第3節 研究・イノベーション・企業計画

シンガポール政府は、経済の高付加価値化及び社会課題の解決を目的として、研究 (Research)、イノベーション (Innovation)、企業 (Enterprise) の統合的推進を柱とする国家計画を 1990 年代以降継続的に策定してきた。<sup>26</sup>

#### 1 Research, Innovation and Enterprise 2025 Plan<sup>27</sup>

2021 年から 2025 年を対象として策定された「Research, Innovation and Enterprise 2025 Plan (以下、RIE2025)」は、シンガポールの科学技術政策の中核として、研究・イノベーション・企業 (RIE) の能力を強化し、国家的課題と長期的競争力の確保を図る包括的計画である。シンガポールのスタートアップはこの計画のもと様々な政府関係機関によりサポートされる。

---

<sup>23</sup> A\*STAR, Agency for Science, Technology and Research [<https://www.a-star.edu.sg/enterprise>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>24</sup> JTC, Who we are [<https://www.jtc.gov.sg/about-jtc/who-we-are>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>25</sup> JTC, LaunchPad: the cradle of Singapore's blossoming start-up scene [<https://www.jtc.gov.sg/about-jtc/news-and-stories/feature-stories/launchpad-cradle-of-singapores-blossoming-startup-scene>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>26</sup> (一財) 自治体国際化協会, 『シンガポールの政策令和 6 年度 (2024 年度) 改訂版』 p.224, 2025 年

<sup>27</sup> (一財) 自治体国際化協会, 『シンガポールの政策令和 6 年度 (2024 年度) 改訂版』 p.224-234, 2025 年

RIE2025 は第一に、RIE のミッション拡大として、2016 年から 2020 年を対象に策定された「Research, Innovation and Enterprise 2020 Plan」で設定した 4 領域を再編し、高齢化や出生率低下に対応する「人間の健康と潜在能力」、土地制約や気候変動に焦点を当てる「都市ソリューションと持続可能性」、サプライチェーン強靱化を含む「製造・貿易・接続性」、デジタルガバナンスを含む「スマート国家とデジタル経済」へと発展させた。これにより、国家的課題に広範に対応し、アジアにおける技術・イノベーション拠点としての地位強化を図る。

第二に、科学基盤の強化として、基礎研究投資を継続し、研究者主導型助成や中規模研究の拡大、学際研究の推進、新興分野（材料インフォマティクス、ナノエレクトロニクス等）への支援を強化する。これにより、知識創造と将来の技術革新を支える研究エコシステムを拡充する。

第三に、技術移転と企業イノベーション（Innovation & Enterprise : I&E）支援の拡大では、I&E プラットフォームを高度化し、地元企業の研究開発成果の商業化を加速する。医療技術（MedTech）やデジタルヘルスなどの新成長領域への展開、企業集団に応じた戦略設計、国際ネットワークの強化に加え、技術とビジネスに跨る「バイリンガル人材」の育成を進める。

加えて、学術研究・人材育成・イノベーションの 3 つの横断分野にも投資を行い、研究者主導型研究の強化、中規模助成の拡大、産業向け実践トレーニングや I&E フェローシップの創設、企業の商業化支援を包括的に進める。総じて RIE2025 は、研究から産業化、人材育成までを統合し、シンガポールのイノベーション国家としての基盤を強化する包括的戦略である。

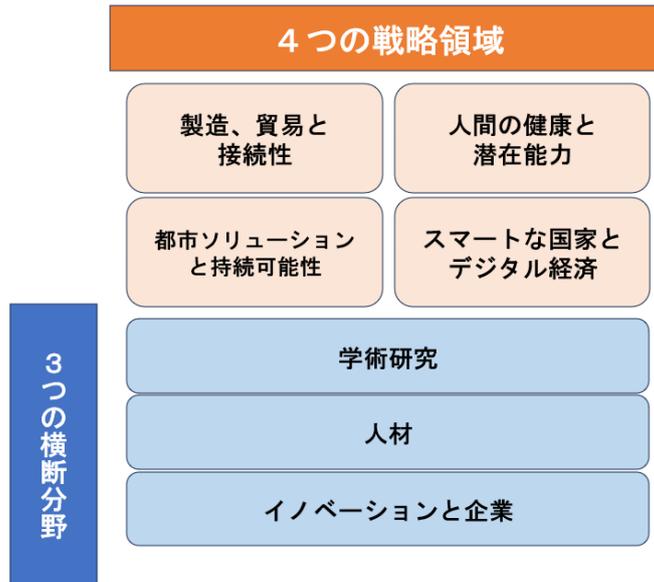
政府は GDP の約 1 %（S\$280 億<sup>28</sup>）を目安に研究、イノベーション、企業活動支援に対し予算を投じる。

2025 年 12 月 6 日に行われた「Research, Innovation and Enterprise 2030（以下、RIE2030）」計画の発表内では、過去の RIE2025 計画の成果として、政府・大学・企業間の協業による過去 2 年間で S\$180 億以上の大規模な半導体投資の誘致、A\*STAR 研究機関等から派生したバイオメドテック企業のユニコーン創出、ディープテック・<sup>29</sup>スタートアップが過去 5 年間で毎年 S\$10 億以上のベンチャーキャピタル資金を獲得したこと等を挙げ、シンガポールの研究・イノベーションエコシステムの成熟を評価した。

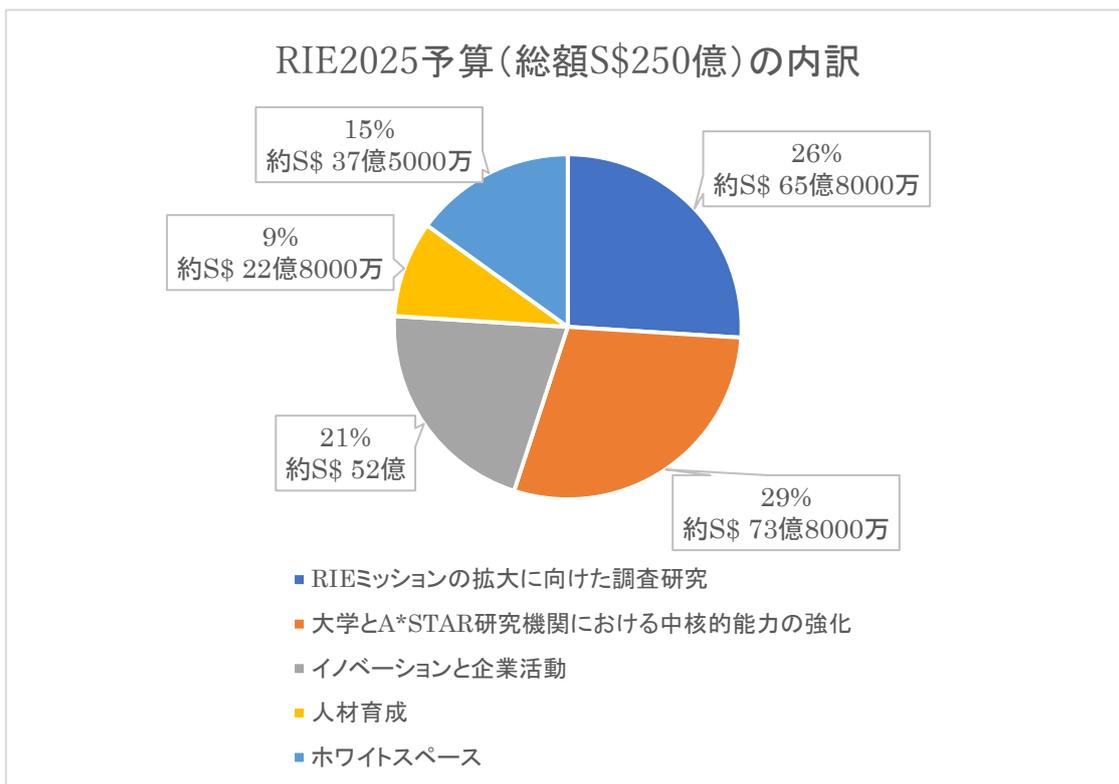
---

<sup>28</sup> 2025 年 12 月 5 日に行われた RIE2030 計画記者発表時には RIE2025 計画の 5 年間では約 S\$280 億が費やされたと発表があった、CNA, Singapore to invest S\$37 billion in research, innovation and enterprise over next 5 years: NRF [<https://www.channelnewsasia.com/singapore/national-research-foundation-research-innovation-enterprise-rie-2030-37-billion-5537496>]（最終検索日 2026 年 2 月 12 日）

<sup>29</sup> CNA, Singapore to invest S\$37 billion in research, innovation and enterprise over next 5 years: NRF [<https://www.channelnewsasia.com/singapore/national-research-foundation-research-innovation-enterprise-rie-2030-37-billion-5537496>]（最終検索日 2026 年 2 月 12 日）



(図 1 - 3) RIE2025 の構造<sup>30</sup>



(図 1 - 4) RIE2025 の予算内訳<sup>31</sup>

<sup>30</sup> NRF, Research, Innovation and Enterprise 2025 Plan, [<https://file.go.gov.sg/rie-2025-handbook.pdf>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日) より著者作成

<sup>31</sup> NRF, Research, Innovation and Enterprise 2025 Plan, [<https://file.go.gov.sg/rie-2025-handbook.pdf>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日) より著者作成

## 2 Research, Innovation and Enterprise 2030 Plan<sup>32</sup>

RIE2030 計画では、研究開発を通じて主要な経済・国家優先事項を支援し、AI・データ・コンピューティング分野の能力構築を推進し、最先端の研究とイノベーションを可能にし、人材基盤と基礎研究能力を強化する。次の5年間（2026～2030年）に総額約 S\$370 億（GDP の約 1%）を RIE 活動に投資する方針を示した。

RIE2025 計画で設定した戦略領域と横断分野は再編され、RIE2025 計画では横断分野として設定されていた「イノベーションと企業」分野を4つの戦略領域それぞれに組み込み、各領域に応じたイノベーションと企業活動戦略をより効果的に策定できるように設定し、あらゆる分野の初期段階の研究実用化と企業イノベーション活動を包括的に支援する。

また、今回の RIE2030 では RIE フラッグシップと RIE グランドチャレンジが導入された。これらは、特定の産業・社会課題に強いミッションを持つ大規模な研究・技術移管に関する国家的プログラムであり、経済的・社会的インパクトを創出するための重点的取組として位置づけられている。

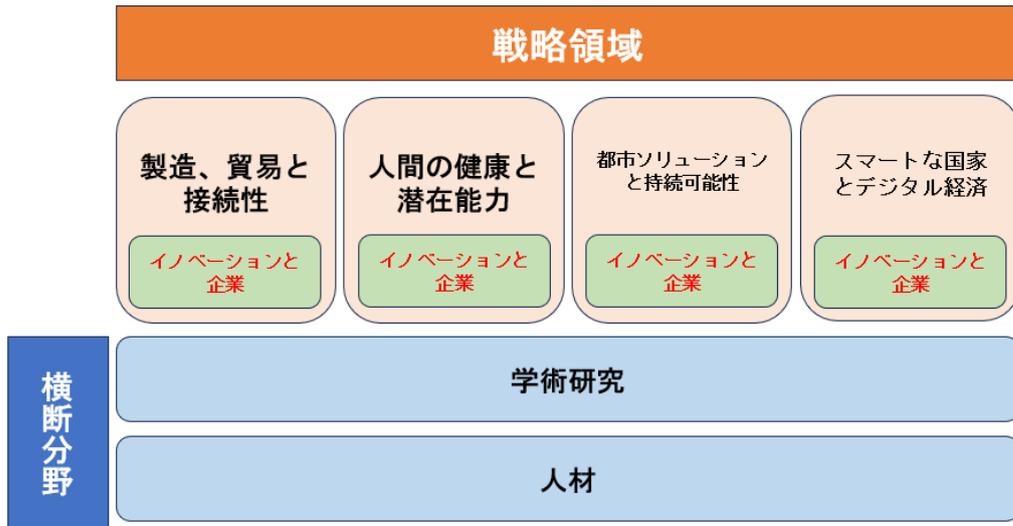
RIE フラッグシッププログラムの一例として、半導体産業を対象とするプロジェクトが挙げられ、同産業におけるシンガポールを研究開発拠点とすることを目標に、世界的に競争力を持つ企業やディープテック・スタートアップの成長を支援する。

次に、RIE グランドチャレンジとして「健康で成功した長寿の実現」が掲げられ、高齢者の認知機能低下や身体機能の喪失の発症・進行を遅らせることを目指し、シンガポールで今後進行する高齢化社会に対応するため、医療、社会環境、AI、イノベーションを通じて、加齢の生物学的メカニズムの理解を深め、脳の健康と身体機能を維持する新たなアプローチの開発を推進する。

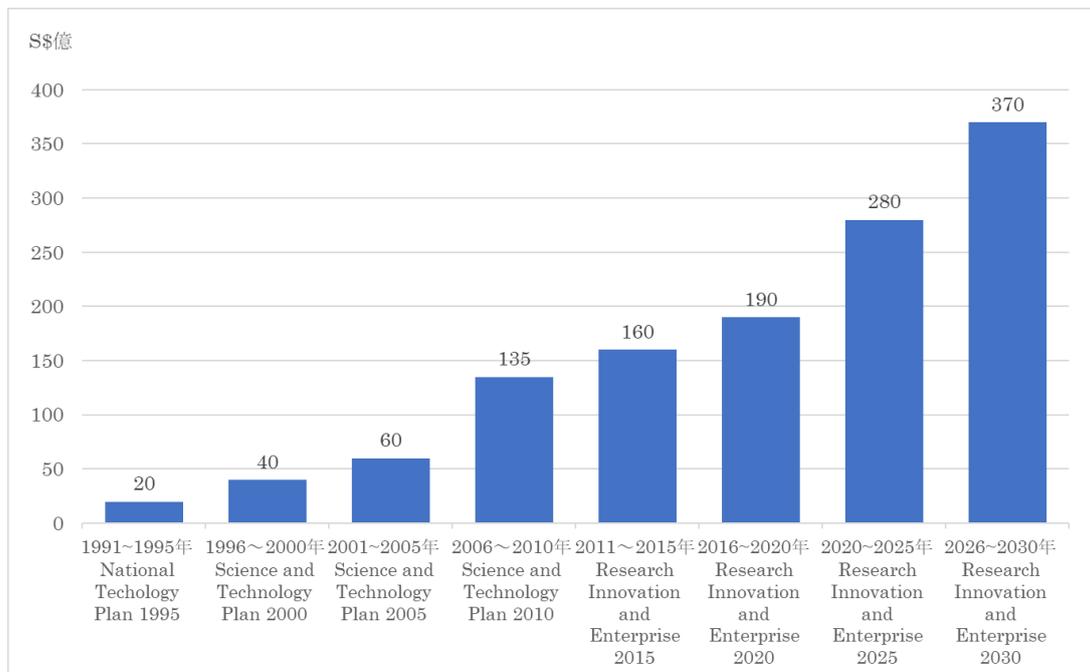
両プログラムのそのほかの取組については 2025 年 12 月の発表時点で協議中であり、今後、様々な分野での取組が行われることが予想される。

---

<sup>32</sup> Prime Minister's Office, Press Release [<https://www.pmo.gov.sg/newsroom/sm-lee-hsien-loong-at-the-press-conference-on-the-launch-of-research-innovation-enterprise-2030-plan/>]（最終検索日 2026 年 2 月 12 日）



(図 1 - 5) RIE2030 の構造<sup>33</sup>



(図 1 - 6) 政府の R&D 振興 (RIE) 5 か年計画の予算推移<sup>34</sup>

<sup>33</sup> Prime Minister's Office, Press Release [<https://www.pmo.gov.sg/newsroom/sm-lee-hsien-loong-at-the-press-conference-on-the-launch-of-research-innovation-enterprise-2030-plan/>] (最終検索日 2026 年 2 月 12 日) より筆者作成

<sup>34</sup> JETRO シンガポール事務所、スタートアップとの共創拠点としてのシンガポール [[https://www.jetro.go.jp/ext\\_images/\\_Reports/02/2025/52d75300ac5dde1d/202503.pdf](https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/02/2025/52d75300ac5dde1d/202503.pdf)] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日) より筆者作成

## 第2章 シンガポール政府が行うスタートアップ支援

### 第1節 Startup SG

2017年に、複数の政府機関によって管轄されていたスタートアップ支援スキームは、統一のブランドである「Startup SG」に一元化された。この結果、国内外の起業家は必要な各種支援スキームを Startup SG のウェブサイトで一覧できるようになり、支援スキームのわかりやすさやアクセスが改善された。<sup>35</sup>

(表2-1) Startup SG 支援スキーム一覧<sup>36</sup>



スキーム名	支援対象	支援内容	管轄
Startup SG Founder	初めての起業家	資金提供、メンターシップ <sup>37</sup>	ESG
Startup SG Tech	スタートアップ	資金提供	ESG
Startup SG Loan	スタートアップ	融資	ESG
Startup SG Accelerator	アクセラレーター、インキュベーター	資金提供	ESG
Startup SG Infrastructure	スタートアップ、インキュベーター	施設利用	JTC
Startup SG Network	スタートアップ企業、アクセラレーター、インキュベーター	ネットワーキング	ESG
Startup SG Equity	スタートアップ (ベンチャーキャピタル)	投資	ESG,EDB

ロゴマークは Startup SG ウェブサイトより引用<sup>37</sup>

#### 1 Startup SG Founder

ESG が初めて起業する起業家に対し、資金援助をすることで経済的なハードルを下げるとともに、メンター支援やネットワークを提供することで、革新的・成長志向のスタートアップ創出を促すことを目的とする。<sup>38</sup>

##### (1) 制度内容

###### ア メンターシップ

起業家は大学、アクセラレーター、インキュベーターからなる、認定メンターパートナー (Accredited Mentor Partners : AMP)<sup>39</sup>を通じて Startup SG Founder

<sup>35</sup> StartupSG About [<https://www.startupsg.gov.sg/about>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>36</sup> 本章第 1 節の内容に基づいて筆者作成

<sup>37</sup> StartupSG [<https://www.startupsg.gov.sg/>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>38</sup> StartupSG Founder Overview [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>39</sup> Startup SG Founder, Accredited Mentor Partners [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder/accredited-mentor-partners>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

の資金助成の申請を行うだけでなく、ピッチトレーニング、ビジネスモデルのブラッシュアップ、ネットワーキング、コーポレート・バックオフィス支援(会社設立、法務、会計、秘書対応など)といった非財政的支援を12か月受けることができる。

Startup SG Founder サイト内の一覧から各認定メンターパートナーの重点分野や提供サービス等を確認することができる。

## イ 資金助成

助成金額は S\$20,000 から S\$50,000。

助成は申請時に少なくとも2つ以上設定されるマイルストーン(節目のポイント)達成時の2回に分け支給され、2回目は全てのマイルストーン達成時に支給される。マイルストーンはクライアント数、月間総収益、特定の機能を備えたアプリやプロトタイプが開発され一定の試験が正常に完了するなど、ESGにより簡単に検証できるよう、定量化が可能なものが設定される<sup>40</sup>。

助成額は申請者の資本金と1:1の割合で決定される。申請者は認定メンターパートナーから推薦を得てから申請を行う。

申請者は申請後に払込資本金として助成額と同額をスタートアップ企業に拠出することで資金助成を受けとる。なお、払込資本金の代わりに、認定メンターパートナー又は第三者からスタートアップへの投資からも調達できる。<sup>41</sup>

申請時点で、シンガポールの会計企業規制庁(Accounting and Corporate Regulatory Authority :ACRA)が提供する公的な登記情報に払込資本として資本の50%を登録する必要があり<sup>42</sup>、2回目の助成の支給時に残りの50%を登録する必要がある(例:S\$20,000を申請する場合、申請時にS\$10,000を登録、2回目の助成支給時に残りのS\$10,000を登録)。

---

<sup>40</sup> Startup SG Founder, Frequently Asked Questions [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder/frequently-asked-questions>] (最終検索日 2026年1月6日)

<sup>41</sup> Startup SG Founder, Frequently Asked Questions [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder/frequently-asked-questions>] (最終検索日 2026年1月6日)

<sup>42</sup> Startup SG Founder, Overview [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder>] (最終検索日 2026年1月6日)

## (2) 申請資格

### ア 申請者の資格

以下の条件を満たす、全てのシンガポール国民若しくは永住者

(表 2 - 2) Startup SG Founder 申請資格<sup>43</sup>

基準	一人目の申請者	二人目の申請者
創業者	これまでに ACRA に登録された非公開有限責任会社 (Private Limited) を設立したことがない	初めての起業である必要はない
雇用	社外雇用されておらず、会社にフルタイムで従事できる	社外雇用可、パートタイム勤務可
起業家育成研修 <sup>44</sup>	起業家育成研修を受けたことがあり、その研修の裏付けとなる証拠を提供できる	起業家育成研修を受けたことがある、又は以前に起業家としての経験があり、それを裏付ける証拠を提供できる
株式保有	初めての起業家である申請者 (一人目の申請者又は両方の申請者) は、合計で最低 30% の株式を保有する必要がある また、申請者双方とも会社の株式を保有している必要がある	
払込資本	申請する助成金額と一致するように、1 : 1 の比率で会社に同額の払込資本を拠出	

なお、2024 年 4 月 1 日から二人目の申請者として、企業経験のある者も申請者として認められ、過去に起業経験のある専門的知識がある起業家 (研究者、科学者、エンジニア等を想定) が参加することで、起業経験のない起業家のスタートアップの設立をより後押しできる体制となった。<sup>45</sup>

<sup>43</sup> Startup SG Founder, Eligibility [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder/eligibility>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日) より筆者作成

<sup>44</sup> 大学等で提供される、企業の中核となる内容 (例: 起業家精神 / ベンチャー創出プロセス、ビジネスモデル、価格戦略と市場開拓、ピッチングと資金調達、評価) を教えるあらゆる種類の体系化されたコースまたはプログラム

<sup>45</sup> Startup SG Founder, Overview [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

## イ スタートアップの基準<sup>46</sup>

申請対象となるスタートアップの基準は以下のとおりである。

- (ア) 過去に同じ事業アイデアに対して他の政府機関から資金提供を受けていない。
- (イ) 発行済み株式の少なくとも 51%はシンガポール国民若しくは永住者が所有
- (ウ) シンガポールで非公開有限責任会社として登録されて6ヶ月未満
- (エ) 事業の主要な活動や本社機能がシンガポール国内で行われていること。
- (オ) 次の事業は対象外とする。

カフェ、レストラン、ナイトクラブ、ラウンジ、バー、フットリフレクソロジー、マッサージパーラー、ギャンブル、売春、社交エスコートサービス、人材紹介会社（外国人就労許可保有者及び労働者・サポートスタッフの採用、移転サービス、人材サービスを含む）、風水師など

## (3) 申請プロセス<sup>47</sup>

申請者は ア 認定メンターパートナーへの事業の提案、イ 認定パートナーによる推薦状・マイルストーンの作成及び申請、ウ 支援開始の手順で ESG に対し申請し支援を受ける。

### ア 認定メンターパートナーへの事業の提案

Startup SG Founder サイト内の一覧にある認定メンターパートナーを選択し、起業するビジネスの提案を行う。

### イ 認定メンターパートナーによる推薦状・マイルストーンの作成及び申請

提案を受けた認定メンターパートナーは提案内容を評価し、支援対象となるスタートアップに推薦状を作成する。また、認定メンターパートナーとスタートアップは共同で、助成期間の 12 か月間で少なくとも2つのマイルストーンを設定し、マイルストーン達成ごとに申請した総額を分割して助成を受ける。

申請者は申請書に合わせ作成された推薦状をつけて ESG に申請を行う。

なお、認定メンターパートナーは以下の基準に基づき提案内容を評価する。

#### (ア) ビジネス・イノベーションの独自性

アイデア・製品・サービス・ビジネスモデル・プロセスが市場で入手可能な

---

<sup>46</sup> Startup SG Founder, Frequently Asked Questions[<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder/frequently-asked-questions>]（最終検索日 2026 年 1 月 6 日）

<sup>47</sup> Startup SG Founder, Frequently Asked Questions[<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder/apply>]（最終検索日 2026 年 1 月 6 日）

ものと比較し斬新であるか。

(イ) ビジネスの実現可能性

収益モデルが持続可能かどうか。

(ウ) 潜在的な市場機会

対象市場の規模の大きさ、様々な特性を持った顧客グループに会社がどのようにリーチしようとしているか。

(エ) 経営陣

創設チームが情熱と起業家精神を示し、アイデアを実行するのに必要な技術的及びビジネス的スキルを備えているかどうか。<sup>48</sup>

ウ 支援開始

ESG の承認後、12 か月間の認定メンターパートナーからのメンタリング支援を受けられるようになる。助成金の支給は、マイルストーン達成時に ESG へ請求し承認後 14 営業日以内に支給されることとなる。申請者は助成金を受け取るため 12 か月以内に設定したマイルストーンを達成する必要がある。<sup>49</sup>

## 2 Startup SG Tech

ESG がアイデアや研究レベルにある独自の技術を持つスタートアップの初期段階に技術開発を迅速に進めるため資金助成を行う。概念実証 (Proof of Concept : POC) や価値実証 (Proof of Value : POV) を通じて技術実証、プロトタイプ化、市場検証を支援し技術の商業化を促すことを目的とする。<sup>50</sup>

(1) 制度内容

スタートアップは技術・コンセプトの開発段階に応じて概念実証助成金又は価値実証助成金を申請することができる。助成金は Startup SG Founder 同様、マイルストーン達成時に支給される。<sup>51</sup>

ア 概念実証助成金

技術やコンセプトが概念化 (理論化) の段階にあり、技術的若しくは科学的な実

---

<sup>48</sup> Startup SG Founder, Frequently Asked Questions [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder/frequently-asked-questions>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>49</sup> Startup SG Founder, Frequently Asked Questions [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder/frequently-asked-questions>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>50</sup> Startup SG Tech, Overview [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>51</sup> Startup SG Tech, Frequently Asked Questions [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech/frequently-asked-questions>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

現可能性を証明する必要があるプロジェクトに対し助成される。

助成金額は最大 S\$400,000 であり、プロジェクトの期間は最大 18 か月<sup>52</sup>である。

財務規律を維持させるためスタートアップは助成額の最低 10%に相当する資本金を払込済みであることを証明する必要がある。<sup>53</sup>

#### イ 価値実証助成金

技術的若しくは科学的に実現可能なコンセプトが証明されており、そのコンセプトの商業的メリットを検証するための実用的なプロトタイプの開発段階にあるプロジェクトに対し助成される。

助成金額は最大 S\$800,000 であり、プロジェクトの期間は最大 30 か月<sup>54</sup>である。

上記概念実証助成金同様、スタートアップは助成額の 20%に相当する資本金を払込済みであることを証明する必要がある。<sup>55</sup>

### (2) 申請資格<sup>56</sup>

#### ア スタートアップの基準

- (ア) 助成金申請時点でシンガポールに法人登録されており、設立から過去 10 年以内の企業
- (イ) 現地株式の少なくとも 30%をシンガポール国民又は永住者が保有している。
- (ウ) 設立時点で法人の子会社<sup>57</sup>ではない。
- (エ) グループの年間売上高が S\$ 1 億以下、又はグループ雇用規模が 200 人以下であること。
- (オ) 主要な研究開発事業がシンガポールで実施されること。
- (カ) 主要な申請者は単なる株主ではなく、会社において重要な役割を担っている必要がある。

#### イ 対象となるプロジェクトの要件

- (ア) 申請時点でプロジェクトが開始されていないこと。

---

<sup>52</sup> Startup SG Tech, Apply [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech/apply>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>53</sup> Startup SG Tech, Eligibility [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech/eligibility>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>54</sup> Startup SG Tech, Apply [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech/apply>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>55</sup> Startup SG Tech, Eligibility [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech/eligibility>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>56</sup> Startup SG Tech, Eligibility [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech/eligibility>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>57</sup> 子会社とは、親会社が 50%以上の株式を保有している会社

- (イ) 科学技術がどのように応用されているかを明確に示すことができること。
- (ウ) 既存の市場に大きな変化をもたらす、若しくは市場・目的・ニッチを新たに置き換える、又は作り出すような画期的なレベルのイノベーションであること。
- (エ) 独自のノウハウ、特許といった知的財産権 (Intellectual Property :IP) の獲得につながる、又はそれに基づいて構築されること。
- (オ) 商業的に実現可能であること。
- (カ) 次のいずれかの分野に該当すること。
  - a 先進製造業、ロボット工学  
例：産業用 IoT、ナノ材料、製造業向け拡張・仮想現実技術 等
  - b バイオメディカルサイエンス、ヘルスケア  
例：臨床診断、医療機器及び製品、デジタルヘルス 等
  - c クリーンテクノロジー  
例：水技術、廃棄物管理、サステイナブルエネルギーの生産管理 等
  - d 情報通信技術  
例：5G テクノロジー、AI (ディープラーニング等)、サイバーセキュリティ 等
  - e 新産業  
例：ブロックチェーン、宇宙関連技術、量子技術 等
  - f 精密工学  
例：シリコンフォトニクス、コーティング、複合技術 等
  - g 輸送工学  
例：DX 技術 (自動化プラットフォーム等)、掘削技術 (石油回収効率化等) 等
  - h 食品科学・技術  
例：食品検査、食品安全、新しい加工技術 (食品廃棄物の価値化等) 等
  - i アグリテック  
例：農業の自動化技術、再生農業、気候変動対策 等

### (3) 申請プロセス<sup>58</sup>

申請者は ア 提案書の提出、イ 提案書の審査、ウ 支援開始の手順で ESG に対し申請し支援を受ける。

#### ア 提案書の提出

申請者は、以下の情報を記載した詳細な提案書を提出する。

---

<sup>58</sup> Startup SG Tech, Apply [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech/apply>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

- (ア) 経営陣や事業の商業化進捗状況といった会社概要
- (イ) 製品や技術の独自性及び革新性の説明、ターゲットとする顧客の課題点とその解決方法
- (ウ) 適用する主な技術と開発作業の状況、開発上の技術的な課題、課題解決のために必要なリソース
- (エ) 製品や技術の市場投入に向けた戦略及び商業化に向けたロードマップ
- (オ) 競合状況と自社の優位性
- (カ) 資金使途

なお、申請段階で概念若しくは価値実証助成金に適しているか不明な場合は、申請する助成金欄を空白で提出し、ESGにて提案内容を確認した後、適切なアドバイスを受けることも可能。<sup>59</sup>

#### イ 提案書の審査<sup>60</sup>

提案は技術的実現性、イノベーションの独自性、商業潜在性、チーム能力、事業プランの妥当性に基つき3つの段階に分け審査される。審査の2段階目では外部のテクノロジーやビジネスコンサルタント、3段階目には企業の幹部、ベンチャーキャピタリスト、高等教育機関や研究機関の教授や研究者、政府機関の代表者等、テック系スタートアップ・エコシステムに深く関与している代表者から構成される最終審査委員会で審査される。最終審査委員会では申請者は委員に向けプレゼンテーションを行うこととなっており、プレゼンテーションの準備にはESG担当者が企業に協力する。

#### ウ 支援開始

承認後、助成条件やマイルストーン、報告義務などを書面により定めたオファークレターを発行し、プロジェクトを開始。進捗報告及びマイルストーン達成時の成果提出が義務となる。

助成金はプロジェクト開始時に全体助成額の20%が最初に支払われ、残りの80%は設定されたマイルストーン達成に応じ分割され支給され、その支給割合はオファークレター作成前に申請者はESGと交渉し決定する。<sup>61</sup>

---

<sup>59</sup> Startup SG Tech, Frequently Asked Questions [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech/frequently-asked-questions>] (最終検索日 2026年1月6日)

<sup>60</sup> Startup SG Tech, Frequently Asked Questions [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech/frequently-asked-questions>] (最終検索日 2026年1月6日)

<sup>61</sup> Startup SG Tech, Frequently Asked Questions [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech/frequently-asked-questions>] (最終検索日 2026年1月6日)

### 3 Startup SG Loan

ESGが行う融資支援制度。2019年10月29日に開始された企業融資制度(Enterprise Financing Scheme : EFS)の対象をスタートアップ企業まで拡大したものがStartup SG Loanである。本制度は、民間金融機関と政府がリスクを分担する形で資金供給を行い、成長可能性は高いものの資金調達制約に直面しやすいスタートアップの事業拡大を後押しすることを目的としている。<sup>62</sup>

#### (1) 制度内容<sup>63</sup>

ESGが直接融資を行うのではなく、民間金融機関を通じて融資支援を提供する。EFSの一部として、ESGは企業が倒産した場合の融資不履行リスクを融資元本に対して金融機関とリスクシェアを行い、スタートアップが融資を受けやすくする仕組みである。

融資対象がスタートアップ(過去5年以内に設立され、従業員が1人以上かつ個人が株式の50%以上を所有している)の場合、ESGと金融機関は7:3でリスクシェアする(通常は1:1)。

#### (2) ローンの種類

- ア グリーンローン<sup>64</sup>
- イ 中小企業運転資金ローン
- ウ 中小企業固定資産ローン
- エ ベンチャーデッド<sup>65</sup>ローン
- オ 貿易ローン
- カ 海外プロジェクトローン
- キ 合併・買収ローン

#### (3) 対象企業と要件

- ア シンガポールに法人登録されている

---

<sup>62</sup> Startup SG Loan Overview [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4899/startup-sg-loan>] (最終検索日 2026年1月6日)

<sup>63</sup> ESG, Enterprise Financing Scheme, [<https://www.enterprisesg.gov.sg/financial-support/enterprise-financing-scheme>] (最終検索日 2026年1月6日)

<sup>64</sup> 企業が国内外のクリーンエネルギーの開発といった、グリーンプロジェクト開発に要する資金を調達するために用いる融資

<sup>65</sup> スタートアップの資金調達の一つ。株式を発行する資金調達を行うエクイティファイナンスと銀行から資金を借り入れるデッドファイナンスの両方の性質を持つ金融商品の総称。スタートアップは融資を受けると同時に新株予約権を付与する。

- イ 現地株式の少なくとも 30%をシンガポール国民又は永住者が保有している
- ウ グループの年間売上高が S\$5 億を超えないこと

#### 4 Startup SG Accelerator

ESG がインキュベーター<sup>66</sup>やアクセラレーター<sup>67</sup>などのスタートアップ支援機関を資金及び非財政的支援をすることにより、スタートアップがより高度で体系的な支援プログラムの提供を受け、さらなる発展を促進することを目的とする。<sup>68</sup>

##### (1) 制度内容<sup>69</sup>

###### ア 資金支援

Startup SG Accelerator による資金支援では、以下の費用を負担することができる。

###### (ア) スタートアップを育成するためのプログラム

スタートアップの新製品や新サービスの開発、事業資金の調達、市場へのアクセスへの改善等を支援するためのプログラム開発費用

###### (イ) スタートアップのメンタリング

スタートアップに経営若しくは技術指導を行うメンターや専門家の雇用にかかる費用

###### (ウ) 運営費用の一部

ESG が認めた運営費用。例：支援機関従業員の給与等

###### イ 非財政的支援

インキュベーターやアクセラレーターは後述する Startup SG Infrastructure 及び Startup SG Network のそれぞれのスキームを通じ既存のシンガポール国内のエコシステムとのネットワーク形成支援を受けることができる。

---

<sup>66</sup> スタートアップ設立初期段階からオフィススペースの提供、資金調達支援、ネットワーク支援等、比較的長期間、企業の成長を促すための支援機関

<sup>67</sup> スタートアップの事業拡大を目的とし、資金、メンタリング、ノウハウ等を提供し比較的短期間に支援を行う機関

<sup>68</sup> Startup SG Accelerator Overview [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4900/startup-sg-accelerator>]  
(最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>69</sup> Startup SG Accelerator Overview [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4900/startup-sg-accelerator>]  
(最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

## (2) 申請資格<sup>70</sup>

ア 次のような分野でスタートアップの育成において優れた実績を持つ、又は独自の価値提案や特定のプログラムを持つアクセラレーター、インキュベーターであること。

(ア) 市場と人材へのアクセス

(イ) 資金調達

(ウ) 起業家育成トレーニング

(エ) 経営指導

(オ) メンターシップ

イ シンガポールを拠点とするスタートアップ企業をサポートするために、シンガポールに事業拠点を置く意思があること。

ウ 長期的に持続可能な収益モデルを持つこと。

エ スタートアップを初期段階から急成長企業に育てるために必要な経験と専門知識を備えた実績のある経営体制であること。

## 5 Startup SG Infrastructure

スタートアップの成長には適切なオフィスや研究・実験施設といったインフラが成長に不可欠であるとの考えのもと、特定の地域や施設をスタートアップ向けクラスターとして整備し、大学や研究機関、インキュベーター、アクセラレーター、ベンチャーキャピタルなど多様なエコシステム関係者が互いに交流できるワークスペースを提供する。<sup>71 72</sup>

### (1) Launch Pad@One North

JTC が管理・運営する、スタートアップ企業、インキュベーター、ベンチャーキャピタリストと、イノベーションとの協業を促進するエコシステムの中心的拠点である。主にバイオメディカル、情報通信、メディア、エレクトロニクス、都市ソリューション、エンジニアリングといった業界の様々なスタートアップのニーズに応えるため、床面積 21.32 から 341.18 平方メートルの範囲の様々なサイズのユニットを

---

<sup>70</sup> Startup SG Accelerator Eligibility [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4900/startup-sg-accelerator/eligibility>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>71</sup> JTC, LaunchPad: the cradle of Singapore's blossoming start-up scene [<https://www.jtc.gov.sg/about-jtc/news-and-stories/feature-stories/launchpad-cradle-of-singapores-blossoming-startup-scene>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>72</sup> ESG, Join Startup SG [<https://www.enterprisesg.gov.sg/grow-your-business/partner-with-singapore/innovation-and-startups/join-startup-sg>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

提供している。<sup>73</sup>

## ア One North

この Launch Pad が位置する One North は、JTC が開発した研究・企業・スタートアップ・教育機関・生活環境を一体化させ、イノベーション活動だけでなく、生活・コミュニティ形成を含めた包括的環境が整えられた複合拠点。

One North 内には、複数の産業・研究特化ゾーン（プレシント）が存在し、それぞれ異なる役割を担っている。代表的なものは次のとおり。<sup>74</sup>

### (ア) バイオポリス Biopolis

バイオ医薬やライフサイエンス研究を行う、研究所・企業・研究開発機関が集積

### (イ) フュージョノポリス Fusionopolis

ICT、メディア、物理科学、エンジニアリング、ハイテク産業の研究及び事業開発を行う、さまざまな規模の企業・機関が集積

### (ウ) メディアポリス Mediapolis

ICT、メディア、クリエイティブ産業、デジタルメディア、コンテンツ産業などの研究・制作・ビジネスを含むメディア産業が集積

また、エリア内には研究開発を実施するとともに、企業への知識や技術の提供、奨学金等による研究者の育成等を行う政府機関の A\*STAR と同機関が運営する研究者や起業家に実験設備、メンタリング、投資家ネットワークを提供する A\*StartCentral<sup>75</sup>が位置している。さらに、エリア近隣には国立大学病院（NUH）が位置しており、スタートアップは様々な研究機関へのアクセスが可能となっている。

このほか、エリア内は住宅、サービスアパートメント、商業施設があり企業で働く従業員の住生活環境も整えられている。<sup>76</sup>

さらに、2026年2月12日にローレンス・ウオン首相が行った2026年度予算演説でAIをシンガポールの戦略的重点分野と位置付け、One North エリア内にAIパークを設置し、AI関連のスタートアップ、研究者、企業の新たな連携とネットワーク

---

<sup>73</sup> JTC, LaunchPad@One-North [<https://www.jtc.gov.sg/find-space/launchpad—onenorth>]（最終検索日 2026年1月6日）

<sup>74</sup> JTC One-North [<https://www.jtc.gov.sg/find-land/jtc-key-estates/one-north>]（最終検索日 2026年1月6日）

<sup>75</sup> A\*STAR, A\*StartCentral, [<https://www.a-star.edu.sg/enterprise/astartcentral>]（最終検索日 2026年1月6日）

<sup>76</sup> JTC One-North [<https://www.jtc.gov.sg/find-land/jtc-key-estates/one-north>]（最終検索日 2026年1月6日）

の拠点とすることを旨と発表した。<sup>77</sup>



(図 2 - 1) One North エリア内のプレシメント<sup>78</sup>

(出典) JTC One North ウェブサイトより引用

#### イ Launch Pad@One North の利用資格<sup>79</sup>

施設の利用資格は次のとおり。

##### (ア) スタートアップ

- a シンガポールに法人登録されている。
- b 最新の資金調達額がシリーズ B<sup>80</sup>未満
- c 法人の子会社ではない。
- d 革新的で知的なコンテンツを持ったテック系スタートアップ
- e 申請時点で設立日から 10 年未満

##### (イ) インキュベーター

- a スタートアップを育成するための明確な開発プログラムを持っていること。

<sup>77</sup> Budget 2026, Speech” C. Harness AI As A Strategic Advantage “ [<https://www.singaporebudget.gov.sg/budget-speech/budget-statement/c-harness-ai-as-a-strategic-advantage#Harness-AI-as-a-Strategic-Advantage>] (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

<sup>78</sup> JTC, One-North [<https://www.jtc.gov.sg/find-land/jtc-key-estates/one-north>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>79</sup> JTC, Launch Pad@ One North [<https://www.jtc.gov.sg/find-space/launchpad%E2%80%94onorth>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>80</sup> 一律の基準はないが ESG がまとめた VENTURE FUNDING LANDSCAPE 2022 によると 2022 年のシンガポール全体のシリーズ B 資金調達額の中央値は約 US\$2,100 万、平均値は約 US\$4,010 万であった ESG, Venture Funding Landscape 2022 [<https://www.startupsg.gov.sg/public/2023-03/Singapore%20Venture%20Funding%20Landscape%202022%20Report.pdf>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

- b 入居企業のコミュニティを成長させるネットワークを持っていること。
- c 入居企業全体を活性化し、強化する強い責任感を持っていること。

#### (ウ) 商業企業

商業目的で入居する企業も対象となるが以下の要件がある。

- a ベンチャーキャピタル、サービスプロバイダー、又はスタートアップを支援若しくはパートナーとする企業であること。
- b ベンチャーキャピタルについては、自社が投資するセクターの重点が明確になっていること。

### (2) Launch Pad@Jurong Innovation District

JTC が管理、運営する、製造、先端技術、クリーンテック、都市ソリューション系スタートアップに対して、物理的インフラ、試作・実証環境、共用設備、ネットワーク、産学連携機会などを包括的に提供するイノベーション拠点。床面積 24.45 から 545.41 平方メートルの範囲の様々なサイズのユニットを提供している。

#### ア Jurong Innovation District

この Launch Pad が位置する Jurong Innovation District は、先端製造、スマート製造、クリーンテック、都市ソリューションといった将来成長産業を集積させ、シンガポールの産業構造の高度化と持続可能性の両立を目指す戦略的拠点である。約 9 万 5 千人の雇用創出を見込み、高付加価値な技術人材の育成と雇用拡大に寄与する点が特徴である。<sup>81</sup>

エリア内には、南洋工科大学や A\*STAR 傘下の製造技術研究所 (SIM Tech) や国立計量センター (NMC) といった研究機関が立地し先端製造、精密計測、標準化に関する高度な研究成果や設備がスタートアップに開放されている。これにより、製造・先端技術・クリーンテック系スタートアップは、研究段階から実証・量産を見据えた技術開発を行いやすい環境が整備されている。<sup>82</sup>

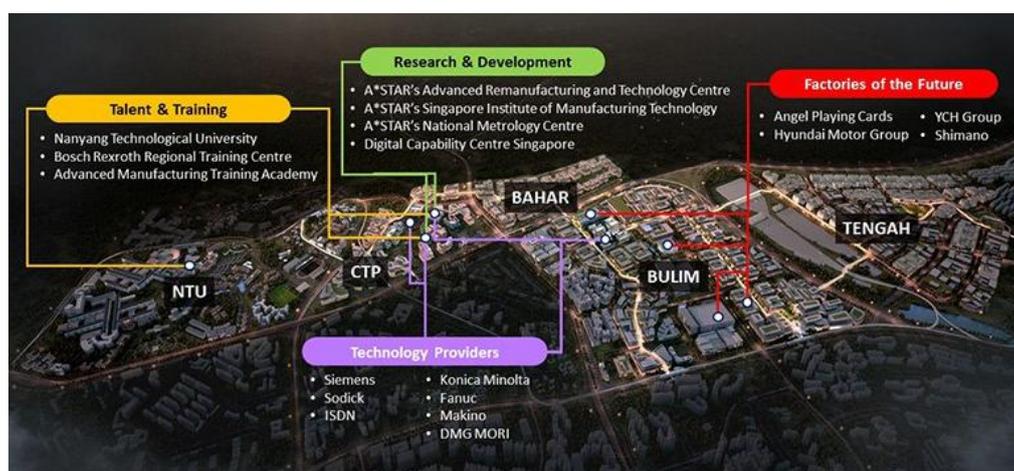
また、大企業が立地することで、協業や技術実証、大規模展開への接続機会が拡大され、ネットワーキングや産学連携プログラムを通じ、共同開発や技術移転が日

---

<sup>81</sup> Prime Minister's Office, Speech by Senior Minister and Coordinating Minister for Social Policies, Tharman Shanmugaratnam, at the launch of the Jurong Innovation District (JID) Masterplan Exhibition on 14 September 2019 [<https://www.pmo.gov.sg/newsroom/sm-tharman-shanmugaratnam-at-the-launch-of-the-jurong-innovation-district-masterplan-exhibition/>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>82</sup> EDB, 5 things you should know about Jurong Innovation District [<https://www.edb.gov.sg/en/business-insights/insights/5-things-you-should-know-about-jurong-innovation-district.html>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

常に促進されている点も特徴である。<sup>83</sup>



(図 2 - 2) Jurong Innovation District 全体の地図<sup>84</sup>

(出典) EDB ウェブサイト 5 things you should know about Jurong Innovation District より引用

## 6 Startup SG Network

2018年に公開されたスタートアップ、投資家、インキュベーター、アクセラレーターなどエコシステムの構成主体をつなぐために一覧化し検索機能を持たせたオンラインプラットフォーム<sup>85</sup>である。

2026年1月現在、シンガポールの4,500社以上のテック系スタートアップ、400社のベンチャーキャピタル、220社のインキュベーターとアクセラレーターが登録され、ネットワークの乏しい企業初期のスタートアップが投資家やインキュベーターなどがプラットフォームを通して検索しマッチングできるようになり、成長の大きな機会を得ることができるようになった。<sup>86</sup>

<sup>83</sup> JTC, Jurong Innovation District Welcomes New Entrants to Its Growing Ecosystem

[<https://www.jtc.gov.sg/juronginnovationdistrict/story-articles/jurong-innovation-district-welcomes-new-entrants-to-its-growing-ecosystem>] (最終検索日 2026年1月6日)

<sup>84</sup> EDB, 5 things you should know about Jurong Innovation District [<https://www.edb.gov.sg/en/business-insights/insights/5-things-you-should-know-about-jurong-innovation-district.html>] (最終検索日 2026年1月6日)

<sup>85</sup> Straight Times, "Singapore start-ups get help finding partners with new online platform"

[<https://www.straitstimes.com/business/economy/singapore-start-ups-get-help-finding-partners-with-new-online-platform>] (最終検索日 2026年1月6日)

<sup>86</sup> Startup SG Network, Overview [<https://www.startupsg.gov.sg/directory>] (最終検索日 2026年1月6日)

## (1) 基本機能<sup>87 88</sup>

### ア プロファイル作成

利用者(スタートアップ、インキュベーター、アクセラレーター、投資家等)は、ウェブサイト上で自社/団体のプロフィールを作成。

プロフィールには会社の概要、製品や技術の詳細等が記載され、アカウントを持つ利用者のみが閲覧可能なスタートアップのピッチプレゼン資料やインキュベーターの事業紹介資料を添付しプロフィールを作成することが可能。

### イ 検索/マッチング

作成されたプロフィールは、他の登録主体が「検索」機能を使って閲覧でき、パートナーや投資家、協業先をフィルターやキーワードで検索し、マッチングすることができる。

## 7 Startup SG Equity

シンガポール政府が実施する担う共同投資スキームであり、テック系スタートアップへの民間投資を促進することを目的としている。本制度は、主として ESG 及び EDB が運営し、政府が民間投資家と並行して資金を投入することで、スタートアップの成長初期段階における資金調達の障壁を取り除く仕組みである。助成金による直接支援とは異なり、政府が投資家としてリスクを分担しつつ、民間資本の呼び込みを強化することを目的とする。<sup>89</sup>

### (1) 制度内容

政府は次の方法で政府の資金運用会社を通じて投資家若しくはベンチャーキャピタル企業と共同で投資を行う。

#### ア 三者投資家と共同で、対象となるスタートアップ企業に投資

政府指定の指定資金運用会社である SEEDS Capital<sup>90</sup>と SGInnovate<sup>91</sup>が第三者投資家と共同で次の投資上限額と共同出資比率で投資する。なお、投資先のスタートアップが一般的なテクノロジーかディープテックかにより投資額の上限等が異なる。

---

<sup>87</sup> StartupSG Overviews [<https://www.startupsg.gov.sg/directory>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>88</sup> StartupSG Overviews [<https://www.startupsg.gov.sg/directory>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日) に登録されている企業情報を閲覧し登録可能な情報を追記

<sup>89</sup> Startup SG Equity Overview [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4895/startup-sg-equity>] (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>90</sup> SEEDS Capital は ESG と EDB の投資部門であり、Startup SG Equity スキームの指定資金運用会社

<sup>91</sup> シンガポール政府が所有する非公開会社で、NRF の管轄下であり、Startup SG Equity スキームの指定資金運用会社

(表 2 - 3) 三者投資家と共同で投資する場合の投資額<sup>92</sup>

	一般的なテクノロジー	ディープテック
SEEDS Capital から スタートアップへの 投資上限	200 万シンガポールドル	1,200 万シンガポールドル
共同出資比率 (SEEDS Capital :共同出資者) 金額は SEEDS Capital からの投資額 を記載	最初の 25 万シンガポールドルまで 7:3 それ以降の 200 万シンガポールドルまで 1:1	最初の機関投資ラウンド <sup>93</sup> であれば、最初の 100 万シンガポールドルまで 2:1 (それ以外の場合は 1:1) その後は最大 400 万シンガポールドルまで 1:1 次に最大 800 万シンガポールドルまで 1:2 最後に最大 1,200 万シンガポールドルまで 1:3

(出典) Startup SG Equity Eligibility ウェブページより筆者作成

イ ファンド・オブ・ファンズ方式<sup>94</sup>を通じて、対象となるスタートアップ企業に投資を行うベンチャーキャピタルファンドに投資  
政府指定の指定資金運用会社である EDBI<sup>95</sup>がベンチャーキャピタルと共同で次の投資上限額と共同出資比率で投資する。

<sup>92</sup> Startup SG Equity Eligibility [ <https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4895/startup-sg-equity/eligibility> ]  
(最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>93</sup> 製品やサービスがアイデア段階で形になっていない段階

<sup>94</sup> 一つのファンドが複数のファンドへ投資し運用する投資信託

<sup>95</sup> EDBI は EDB の投資部門であり、Startup SG Equity スキームの指定資金運用会社

(表 2-4) ファンド・オブ・ファンズ方式で投資する場合の投資額<sup>96</sup>

投資対象	シンガポールを拠点とするアーリーステージのディープテック・スタートアップで、主に以下の分野に重点を置いている企業： 先端製造技術 バイオ医薬品・メドテック アグリフードテック
ファンド規模	最低 3,000 万シンガポールドル規模のファンド
投資条件	投資先ファンドは、投資先企業ごとにファンド規模の最大 20% を投資可能。 投資先ファンドによるシンガポール拠点のディープテック系スタートアップへの総投資額は、少なくとも EDBI の出資額と 1:1 の比率、又はファンド総額の 20%以上。

(出典) Startup SG Equity Eligibility ウェブページより筆者作成

### (3) 申請資格<sup>97</sup>

#### ア スタートアップ

政府との共同投資を求めるスタートアップは、以下の基準を満たす必要がある。

- (ア) 主要な業務をシンガポールで行う、シンガポールを拠点とする企業であること。
- (イ) 非公開有限会社として設立されてから 10 年未満であること。
- (ウ) 払込資本金が少なくとも S\$50,000 であること。
- (エ) イノベーションを開発又は発展させていること。  
イノベーションとは次のいずれか指す。
  - a テクノロジーを活用した製品、サービス、プラットフォームを開発、生産、商品化する。
  - b 承認された国内知的財産機関に登録された特許を保有している。
  - c 研究機関との研究協力を継続している。
- (オ) 国際市場向けに明確な拡張性を備え、高い成長の可能性があること。
- (カ) 投資が可能な独立した第三者投資家を特定している。
- (キ) 子会社又は合弁会社ではない。

<sup>96</sup> Startup SG Equity Eligibility [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4895/startup-sg-equity/eligibility>]  
(最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<sup>97</sup> Startup SG Equity Eligibility [<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4895/startup-sg-equity/eligibility>]  
(最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

ディープテック・スタートアップとして投資を受けるには以下の項目が含まれている必要がある。

- (ア) 独自性があり、高度な技術的又は科学的な進歩を基盤とした製品を開発していること。
- (イ) 参入障壁が高いこと。
- (ウ) 商業化までに時間を要すること（通常3年以上）。

#### イ 第三者共同投資家

共同投資の資格を得るには、投資家は以下の基準を満たす必要がある。

- (ア) 投資家は、スタートアップに付加価値をもたらす経営経験、関連するビジネス上の人脈、必要な技術的専門知識を有しスタートアップの成長に貢献できること。
- (イ) 投資家は政府との共同投資前に投資先の株式を保有していないこと。

#### ウ 投資先ファンド

ファンド・オブ・ファンズによる投資を求めるベンチャーキャピタルファンドは、以下の基準を満たす必要がある。

- (ア) 先進製造技術、バイオ医薬品・メドテック、アグリフードテックの分野に重点を置き、シンガポールを拠点とする初期段階のディープテック系スタートアップへの投資に積極的に取り組んでいること。
- (イ) 投資先ファンドには、少なくともシンガポールに拠点を置く幹部クラス（部門統括責任者、副社長又は同等の役職者）が在籍していること。
- (ウ) ゼネラルパートナー<sup>98</sup>には、過去にディープテック スタートアップ企業の初期段階の投資ラウンドを主導し、良好な内部収益率を達成した実績があること。
- (エ) 経営陣は、強固な意思決定プロセスを確保するために、強力な経営経験、技術及び財務の専門知識を備えていること。
- (オ) 投資先のスタートアップ企業の成長を促進するための、取引フロー、資金調達、商業化ネットワークへのアクセスを備えた強力なビジネス ネットワークを備えていること。

なお、2026年2月12日の2026年度予算演説でローレンス・ウォン首相はStartup SG Equity 拡充のためS\$10億を充当し、対象をこれまで重点を置いていた初期段階の企業から拡大し成長段階の企業にまで含めることを発表した。これにより、世界的に資金調達のひっ迫している成長段階の企業、特にディープテック

---

<sup>98</sup>投資戦略の策定、投資先の選定等、複数あるファンド全体の管理を行うファンド運用責任者（企業）

企業が事業拡大に必要な資金調達が容易になることが見込まれる。<sup>99</sup>

## 第2節 海外展開支援

### 1 Global Innovation Alliance

Global Innovation Alliance (GIA) は、テクノロジーとイノベーションに焦点を当てた、主要なイノベーションハブ及び市場におけるシンガポールと海外のパートナーとのネットワークであり、ESG は現地のプレーヤーと連携し、24 拠点でアクセラレーションプログラムを、また 40 か国と共同イノベーションプログラムを実施している。



(図2-3) 世界のGIAプログラムの拠点<sup>100</sup>

(出典) GIA ウェブサイトより引用

#### (1) GIA Acceleration Programmes

シンガポールのスタートアップや中小企業が海外市場に進出するため各GIA拠点で実施される支援プログラム。ワークショップ、メンタリング、ビジネスマッチング、潜在パートナーや顧客との接点づくりなどを通じて、市場参入・拡大をサポートする。

プログラムの企画運営は科学的バックグラウンドを持ち、該当地域の研究機関や関連企業に精通した企業が行う。

支援内容や参加資格は各GIA拠点により異なり、日本を拠点とする具体的な例は以下のとおり。

<sup>99</sup> Budget2026, Speeches ” B. Advance Our Refreshed Economic Strategy

“[\[https://www.singaporebudget.gov.sg/budget-speech/budget-statement/b-advance-our-refreshed-economic-strategy#Advance-Our-Refreshed-Economic-Strategy\]](https://www.singaporebudget.gov.sg/budget-speech/budget-statement/b-advance-our-refreshed-economic-strategy#Advance-Our-Refreshed-Economic-Strategy) (最終検索日 2026年2月12日)

<sup>100</sup> ESG, Global Innovation Alliance Overview [\[https://www.enterprisesg.gov.sg/grow-your-business/innovate-with-us/market-access-and-networks/global-innovation-alliance/overview\]](https://www.enterprisesg.gov.sg/grow-your-business/innovate-with-us/market-access-and-networks/global-innovation-alliance/overview) (最終検索日 2026年1月6日)

## ア GIA Tokyo Acceleration Programme<sup>101</sup>

東京を経由して日本への進出を目指すシンガポール拠点のテック系スタートアップと現地パートナーを結び付け、システムやサービスのテスト及び商品化する機会を提供することを目的に2段階のフェーズに分けて実施される。なお、本プログラムに参加するため、企業は各税別でフェーズ1で S\$2,000、フェーズ2で S\$6,000 を支払う必要があり、日本への渡航費用も自費での負担となる。

### (ア) フェーズ1：市場調査プログラム

日本市場参入の初期段階又は調査段階にある、あらゆる分野のテクノロジー系スタートアップ企業及び革新的な中小企業を対象に運営企業と協力し日本市場参入に向けた明確なアクションプランを作成する。なお、企業はフェーズ1へ年に2回申請をすることができる。

#### a 教育

投資環境、製造業の可能性、法人化などの講義を通して、様々な側面から日本のスタートアップとイノベーションの状況を学ぶ。

#### b 仮説の構築

運営企業担当者との個別面談を通して、潜在的なパートナー候補の選定、市場参入戦略の策定、活用すべき日本の最新技術や関連技術について議論し、日本市場参入に向けたアクションプランを作成する。

#### c 現地訪問

日本の主要なスタートアップエコシステムプレーヤーを訪問し、ビジネスチャンスの提示やアクションプランへのフィードバックを受ける、またビジネス文化と課題を正しく理解する。

#### d クリスタライズ（思考の具体化、簡潔化）

現地訪問後、運営企業担当者と協力し作成したアクションプランを見直す。

### (イ) フェーズ2：ビジネス創出プログラム

運営企業は、参加者と協力して、日本企業のイノベーションにおける主要なステークホルダーとの1対1のビジネスミーティングの機会を創出し、パートナーシップの構築を促進する。フェーズ2は随時開催される。

参加者は日本市場への参入に適しており、かつその意欲を持つ、あらゆる分野のシンガポールを拠点とするテック系スタートアップ企業、又は革新的な中小企業を対象とする。なお、対象には、フェーズ1を完了した企業、又は運営企業によ

---

<sup>101</sup> ESG, GIA Tokyo Acceleration Programme [<https://www.enterprisesg.gov.sg/grow-your-business/innovate-with-us/market-access-and-networks/global-innovation-alliance/gia/gia-tokyo>]（最終検索日 2026年1月6日）

て本プログラムへの参入に適していると評価された企業が含まれる。

a 戦略立案

運営企業担当者と個別に話し合い、ターゲットとする特定のビジネス領域や成果について理解し、日本滞在中に会うパートナーをリストアップし、特定したターゲット組織との連携を強化する最善の方法について仮説を立てる。

b 事業開発

現地訪問を行い、日本の潜在的パートナー企業と少なくとも5回の個別ビジネスミーティングを実施する。各企業には専任の運営企業担当者が1名ずつつき、目標達成に向けたコミュニケーションをサポートする。

c 深化

事業開発のための現地訪問後、参加者は運営企業と今後の取組について話し合い、日本で出会った潜在的なパートナーへのフォローアップを共同で進める。これには、このプログラムにおけるアクションプランに関する更なるフィードバックも含まれる。

上記のほか、同プログラムではシンガポール市場への進出を目指す、日本のディープテック・スタートアップへ3か月間の支援も行っている。

## (2) Co-Innovation Programmes<sup>102</sup>

Co-Innovation Programmes では、シンガポールに拠点を置く企業とその海外パートナーの共同研究開発プロジェクトを支援することで、現地市場における海外パートナーとの共同研究開発プロジェクトなどのイノベーション活動を通じ、強い市場可能性を秘めた新製品、システムやサービスの開発につなげる。

対象となる企業は、対象となる費用項目について、Enterprise Development Grant<sup>103</sup>から最大50%の支援を受けることができる。

### ア 申請資格

申請する企業は以下の基準を満たす必要がある。

- (ア) 現地所有であること（普通株式の30%以上をシンガポール人若しくは永住者が直接又は間接的に保有している）。
- (イ) プロジェクトを開始し完了するための財政的余裕があること。
- (ウ) 主申請者はシンガポールで登録又は設立され、運営されている事業体であ

---

<sup>102</sup> ESG, Co-Innovation Programmes [<https://www.enterprisesg.gov.sg/Grow-Your-Business/innovate-with-us/market-access-and-networks/Global-Innovation-Alliance/cip-programmes>]（最終検索日2026年1月6日）

<sup>103</sup> ESGが提供する企業支援補助金で中小企業の国際展開だけでなく生産性向上や事業のイノベーションに対し支援を行う補助金

ること。

#### イ パートナーの検索

ESG が提供するパートナーマッチングプラットフォームを通じて共同研究開発プロジェクトを行う海外のパートナーを探ることができる。このプラットフォームは国内外問わず企業が事業の詳細、スケジュール、重点分野、興味のある分野等を入力し登録し、プラットフォーム内でマッチングを行い、ネットワーキングや協業の機会を得ることができる。プラットフォームには現在 28 の国と地域から約 500 社（うち約 200 社がシンガポールから）が登録されており、これまでに約 800 のプロジェクトの機会が掲載された。<sup>104</sup>

また、国外の公的資金提供機関やプログラムに所属する海外企業との共同研究プロジェクト等については Co-Innovation Programmes ウェブページ内で公募される。

#### ウ 申請

申請に必要な書類はプログラムにより異なるが、おおむね以下の書類の提出が必要となる。助成金の交付が決定された場合、支援条件と助成金額を記載したオファーレターが送付される。

(ア) プロジェクトの提案情報

(イ) 最新の ACRA に登録された事業情報

(ウ) 最新及び過去 2 年間の監査済み財務諸表又は管理会計簿

(エ) 関連する費用の見積もり（例：機器及びソフトウェア、材料及び消耗品、専門サービス）

#### エ 請求

最終的な請求は、プロジェクトの成果物が全て達成された時点で提出できる。請求は、プロジェクトの適格期間終了から 6 ヶ月以内に ESG まで提出する。

## 2 Stage One

Stage One はスタートアップの「Start（設立と法人化）」、「Built（事業構築・能力開発）」、「Grow（拡大・市場展開）」をワンストップで支援するため ESG 及び EDB により設立され、管理運営は ACE.SG<sup>105</sup> (Action Community for Entrepreneurship)

---

<sup>104</sup> ESG, Joint Innovation with Singapore - Partner Matching Platform [<https://www.b2match.com/e/joint-innovation-with-singapore-2024>]（最終検索日 2026 年 1 月 6 日）

<sup>105</sup> 2003 年に ESG の前身機関によって設立されたシンガポールのスタートアップ・エコシステムを支援する民間主導の非営利組織。起業家育成やネットワーク形成、政策提言、国際連携などを通じて、起業活動の促進を担う。

が行うプラットフォームである。<sup>106</sup>2025年10月30日に Launch Pad@One North 内に拠点となる新しいセンターが開設された。Stage One は、政府機関はもちろん、金融機関や経営コンサルタント等の民間企業といった協力機関と連携して、Start、Built、Grow という3つの主要分野にわたって、ビジネスアドバイザー、開発サポート、ネットワーキングの機会を提供し、国内外のスタートアップを包括的に支援する。<sup>107</sup>

#### (1) Start (設立と法人化)

シンガポールで新たに事業を開始する国内外のスタートアップに対してシンガポールでのエコシステムを理解し、円滑に事業を立ち上げられるように、ビジネスアドバイザーサービスを提供し、スタートアップと関連パートナー企業を繋ぎ、関連パートナー企業は、人材採用、資金調達、法人設立、知的財産登録といった分野でサポートを提供する。<sup>108</sup>

#### (2) Built (事業構築・能力開発)

資金調達機会の提供、事業マッチング、研究開発協業、人的資源確保など、成長に向けた能力構築を支援。また、海外の投資家や企業等とのネットワークイベントやスタートアップの事業構築に関し専門的知識を有するインキュベーターの講演などを通じて、業界の専門家からの知見を得られる場を提供する。<sup>109</sup>

#### (3) Grow (拡大・市場展開)

Stage One プログラムでは、市場調査や情報共有、専門家による助言を通じて市場理解を深めるとともに、メンターやサービスパートナーのネットワークを活用し、シンガポールを起点とした国内外への事業拡大を支援する。さらに、同節第1項に記載した GIA Programme を通じ、海外市場へのソフトランディングと現地パートナーによる支援が提供される。<sup>110</sup>

---

<sup>106</sup> ACE.SG Stage One [<https://ace.sg/stage-one>] (最終検索日 2026年1月6日)

<sup>107</sup> MTI, Opening Address by Min(EST) Tan See Leng at the launch of Stage One's physical campus [<https://www.mti.gov.sg/newsroom/opening-address-by-min-est--tan-see-leng-at-the-launch-of-stage-one-s-physical-campus>] (最終検索日 2026年1月6日)

<sup>108</sup> Stage One, Set up and Incorporation [<https://www.startupsg.gov.sg/stageone/page/set-up-and-incorporation/>] (最終検索日 2026年1月6日)

<sup>109</sup> Stage One, Capability Building [<https://www.startupsg.gov.sg/stageone/page/capability-building/>] (最終検索日 2026年1月6日)

<sup>110</sup> Stage One, Market Access [<https://www.startupsg.gov.sg/stageone/page/market-access/>] (最終検索日 2026年1月6日)

### 第3章 シンガポールの支援政策の成果

#### 第1節 Forte Biotech 社の事例

##### 1 企業の事業概要

###### (1) 設立背景と目的

Forte Biotech 社は 2021 年に設立されたバイオテック系スタートアップである。創業者は農村地域の養殖業者の現場での課題を目の当たりにした経験を基に起業し、エビ養殖における疾病リスクの早期検出を可能にし、持続可能な養殖を支える技術を提供することを目的としている<sup>111</sup>。

###### (2) 主要技術・製品

同社が開発する主要製品は RAPID (Robust Accurate Prawn Infection Detector (堅牢な精密エビ感染症検出器)) であり、LAMP PCR (ループ媒介等温増幅法) 技術を活用した現場即時診断システムである。このシステムは約 1 時間以内に現場での病原体検出を可能にし、特定の病原体を高精度で検知する。

従来の研究機関で使用される高価な検査機器とは異なり、現場で使える廉価かつ高精度な診断技術であり、多くの養殖業者自身で疾病管理を実行可能とすることで、損失軽減や抗生物質使用の最適化を目指す。<sup>112</sup>

##### 2 利用した Startup SG 関連の支援と効果

###### (1) 支援制度：Startup SG Tech (Proof of Value 助成)

Forte Biotech 社は、シンガポール政府のスタートアップ支援制度 Startup SG Tech の一部として提供される Proof of Value (POV) 助成金を獲得して、製造能力構築と製品プロトタイプの開発を可能とした。同社はベトナムの複数の養殖場に対して RAPID のフィールドテストを実施し、実用性と有効性を検証した。これにより、技術の商用化可能性と現場適応性が確認された。

同社は助成金による資金的バックアップは、同社が市場での技術展開戦略を構築するうえで重要な後押しとなり、シンガポールを拠点に開発された技術はベトナム、タイ、インドネシアの主要養殖市場へと展開され、顧客基盤の広がりや技術の地域での適応性の確認に寄与したと述べている。<sup>113</sup>

---

<sup>111</sup> ESG, Singapore's agri-tech firms find fertile ground [<https://www.enterprisesg.gov.sg/resources/media-centre/news/2025/november/singapores-agri-tech-firms-find-fertile-ground>] (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

<sup>112</sup> ESG, Singapore's agri-tech firms find fertile ground [<https://www.enterprisesg.gov.sg/resources/media-centre/news/2025/november/singapores-agri-tech-firms-find-fertile-ground>] (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

<sup>113</sup> Startup SG, Empowering farmers, improving outcomes: Changing the game for food security [<https://www.startupsg.gov.sg/news/329101/empowering-farmers-improving-outcomes-changing-the-game-for-food-security>] (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

## 第2節 Aliena 社の事例

### 1 企業の事業概要

#### (1) 設立背景と目的

Aliena 社は、シンガポールを拠点とするスペーステック（宇宙技術）系スタートアップ企業であり、小型衛星の推進システム不足という技術的課題への対応のため2018年に設立された。小型衛星市場の拡大に伴い、低電力で高効率の推進システムが求められているが、従来の技術では実現が困難だった。この課題に対し、低電力プラズマ推進システムを開発し、衛星の運用効率とミッション能力を向上させることを目的としている。<sup>114</sup>

#### (2) 主要技術・製品

Aliena が提供する中心的な技術・製品は小型衛星向けの電気推進システム（electric propulsion systems）あり、低電力で高効率な推進力を実現する。この推進システムは、小型衛星が異なる軌道へ移動したり、長期間の運用を行ったりする際に大きな恩恵をもたらす。<sup>115</sup>

### 2 利用した Startup SG 関連の支援と効果

#### (1) 支援制度：Startup SG Equity

Aliena は Startup SG Equity を通じて S\$742 万の資金を調達し、投資家には Seeds Capital や Wavemaker Partners (VC) 等が含まれている。この資金調達で、同社は研究開発中心の段階から、量産設備やテストインフラの整備、顧客向け推進システムの大量生産体制確立し、国際市場への展開段階へと移行するうえで重要な役割を果たしたと述べている。<sup>116</sup>

## 第3節 ACKTEC Technologies 社の事例

### 1 企業の事業概要

#### (1) 設立背景と目的

ACKTEC Technologies 社は2018年にシンガポールで設立された教育テクノロジー（EdTech）系スタートアップであり、学習のデジタル化・効率化を実現することを目的としている。

---

<sup>114</sup> ALENA, THE FUTURE OF SPACE-TECH: SINGAPORE-BASED ALIENA SECURES US\$ 5.5M SERIES A FUNDING TO SCALE UP PRODUCTION OF SMALL SATELLITE THRUSTERS [<https://www.aliena.sg/news>]（最終検索日 2026 年 2 月 12 日）

<sup>115</sup> ALENA, [<https://www.aliena.sg/>]（最終検索日 2026 年 2 月 12 日）

<sup>116</sup> EDB, S'pore adds another S\$440 million in investment to boost growth of deep tech startups [<https://www.edb.gov.sg/en/business-insights/insights/spore-adds-another-s440-million-in-investment-to-boost-growth-of-deep-tech-startups.html>]（最終検索日 2026 年 2 月 12 日）

同社の創業背景には、従来の教育・研修の非効率性、現場ニーズとの断絶、従来型のコンテンツ配信の限界があり、これらをテクノロジーによって革新するというビジョンがある。<sup>117</sup>

## (2) 主要技術・製品

ACKTEC Technologies 社が開発・提供する主要な技術・製品は、VR（仮想現実）、AR（拡張現実）、AI（人工知能）、3D シミュレーションなどを用いた没入型学習プラットフォームである。プラットフォームを利用し企業の従業員の学習や研修、教育機関向けのコンテンツ配信・管理をサポートし、気軽にリモートで学習できる環境を提供すると同時に、AI と VR/AR を組み合わせることで没入感の高い教区体験と学習成果の可視化を可能にするインタラクティブ学習コンテンツを提供する。<sup>118</sup>

## 2 利用した Startup SG 関連の支援と効果

### (1) 支援制度：Global Innovation Alliance（GIA）

ACKTEC Technologies 社は GIA の下で複数のアクセラレーションプログラムに参加しており、特にインドネシア市場及び中国市場での事業拡大を狙ったプログラムに参画している。

同社は GIA の海外パートナーシップの現地企業・投資家とのネットワーク形成支援により、インドネシア市場向けプログラムでは同社は顧客・パートナー候補と接点を持つことができ、また、中国市場向けのプログラムでは、現地企業との関係構築が進み、技術的な協業及び地域拠点設立の可能性拡大につながったと述べている。<sup>119</sup>

---

<sup>117</sup> ACKTEC Technologies [<https://www.acktechnologies.com/>]（最終検索日 2026 年 2 月 12 日）

<sup>118</sup> ACKTEC Technologies [<https://www.acktechnologies.com/>]（最終検索日 2026 年 2 月 12 日）

<sup>119</sup> ESG, Diving into a new market? The Global Innovation Alliance can be your springboard [<https://www.enterprisesg.gov.sg/resources/blog/diving-into-a-new-market-the-global-innovation-alliance-can-be-your-springboard>]（最終検索日 2026 年 2 月 12 日）

## まとめ

本稿では、シンガポール政府がスタートアップ支援を進めるうえで重視している基本的な考え方について整理した。そこでは、政府が直接市場に介入するのではなく、民間の投資や起業活動が活発に行われる環境を整えることに主眼が置かれている。資金支援、人材育成、研究開発、海外展開といった各分野においても、民間との連携を前提とした制度設計がなされており、スタートアップが自立的に成長していくことを後押しする姿勢が一貫して見られる。このように、政府は前面に出て主導するのではなく、エコシステム全体を支える役割を担っている点が、シンガポールのスタートアップ支援の特徴であると考えられる。

また、シンガポールにおけるスタートアップ支援政策について、その背景、ならびに具体的な支援施策を多角的に整理してきた。シンガポールは、天然資源や広大な内需市場を持たない都市国家という制約条件の下で、イノベーションと起業活動を経済成長の中核に据える国家戦略を早期から明確に打ち出してきた。その結果、スタートアップ支援は単なる中小企業対策にとどまらず、産業構造転換、人材政策、対外経済戦略と一体化した国家レベルの重要政策として位置付けられている。

具体的に提供される支援においては、資金助成や投資制度に限られるものではなく、アクセラレーターの育成支援、大学や研究機関との連携促進、起業拠点となるインフラ整備、さらには海外市場への展開支援まで、スタートアップを取り巻く環境全体を視野に入れた幅広い施策が展開されている。これらの支援は個別に存在しているように見えるものの、実際にはスタートアップの成長段階に応じて段階的に活用できるよう設計されており、起業から成長・拡大に至るまでを継続的に後押しする仕組みとなっている点が特徴であると考えられる。

このようなシンガポールの取組は、日本の自治体がスタートアップ支援を進めていくうえでも、多くの示唆を与えるものである。特に、限られた財源や人材の中で、どの分野に重点を置くのかを明確にし、民間企業や大学、研究機関と役割を分担しながら支援を行う考え方は、地域の実情に即した政策を検討する際に参考となるだろう。本稿が各自治体の特性に応じたスタートアップ支援政策の決定するうえで参考となれば幸いである。

## 参考文献、資料、ウェブサイト一覧

### 第1章

#### <参考文献、資料等>

- （一財）自治体国際化協会  
シンガポールの政策令和6年度（2024年度）改訂版, 2025年
- 世界知的所有権機構（WIPO : World Intellectual Property Organization）  
Global Innovation Index 2025 Innovation at a Crossroads 18<sup>th</sup> Edition 2025年
- シンガポール企業庁（ESG）  
SINGAPORE VENTURE FUNDING LANDSCAPE 2024 A Nine Month Report, 2024年
- シンガポール国家研究財団（NRF）  
Research, Innovation and Enterprise 2025 Plan Handbook, 2020年  
Research, Innovation and Enterprise 2030 Factsheets, 2025年

#### <参考ウェブサイト>

- 経済開発庁（EDB）  
<https://www.edb.gov.sg/en/business-insights/insights/build-your-a-team-and-seize-global-opportunities.html>（最終検索日 2026年1月6日）  
<https://www.edb.gov.sg/en/why-singapore/business-friendly-environment.html>  
（最終検索日 2026年1月6日）
- 人材開発省（MOM）  
<https://www.mom.gov.sg/passes-and-permits/entrepass>（最終検索日 2026年1月6日）
- シンガポール統計局（Department of Statistic Singapore）Sing Stat Table Builder  
<https://tablebuilder.singstat.gov.sg/table/TS/M015891>（最終検索日 2026年1月6日）
- シンガポール科学技術研究庁（A\*STAR）  
<https://www.a-star.edu.sg/enterprise>（最終検索日 2026年1月6日）
- JTC コーポレーション  
<https://www.jtc.gov.sg/about-jtc/who-we-are>（最終検索日 2026年1月6日）  
<https://www.jtc.gov.sg/about-jtc/news-and-stories/feature-stories/launchpad-cradle-of-singapores-blossoming-startup-scene>（最終検索日 2026年1月6日）
- 首相府  
<https://www.pmo.gov.sg/newsroom/sm-lee-hsien-loong-at-the-press-conference-on-the-launch-of-research-innovation-enterprise-2030-plan/>（最終検索日 2026年2月12日）
- CNA  
<https://www.channelnewsasia.com/singapore/national-research-foundation->

[research-innovation-enterprise-rie-2030-37-billion-5537496](#) (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

## 第 2 章

<参考文献、資料等>

### ○シンガポール企業庁 (ESG)

SINGAPORE VENTURE FUNDING LANDSCAPE 2022 Full Year Study ,2023 年

<参考ウェブサイト>

### ○Startup SG

<https://www.startupsg.gov.sg/about> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

### ○StartupSGFounder

<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder/accredited-mentor-partners> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder/frequently-asked-questions> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4894/startup-sg-founder/eligibility> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

### ○Startup SG Tech

<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech/frequently-asked-questions> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech/apply> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4897/startup-sg-tech/eligibility> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

### ○Startup SG Loan

<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4899/startup-sg-loan> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

### ○Enterprise Financing Scheme(ESG)

<https://www.enterprisesg.gov.sg/financial-support/enterprise-financing-scheme>

### ○環境省グリーンファイナンスポータルサイト

<https://greenfinanceportal.env.go.jp/loan/overview/about.html> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

○東大 IPC

<https://www.utokyo-ipc.co.jp/column/venture-debt/>(最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

○StartupSGAccelerator

<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4900/startup-sg-accelerator> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4900/startup-sg-accelerator/eligibility> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

○JTC コーポレーション

<https://www.jtc.gov.sg/about-jtc/news-and-stories/feature-stories/launchpad-cradle-of-singapores-blossoming-startup-scene> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.jtc.gov.sg/find-land/land-for-long-term-development/one-north> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.jtc.gov.sg/find-land/jtc-key-estates/one-north> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.jtc.gov.sg/find-space/launchpad%E2%80%94onenorth> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.jtc.gov.sg/juronginnovationdistrict/story-articles/jurong-innovation-district-welcomes-new-entrants-to-its-growing-ecosystem> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

○シンガポール科学技術研究庁 (A\*STAR)

<https://www.a-star.edu.sg/enterprise/astartcentral>(最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

○Budget 2026

<https://www.singaporebudget.gov.sg/budget-speech/budget-statement/c-harness-ai-as-a-strategic-advantage#Harness-AI-as-a-Strategic-Advantage> (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

<https://www.singaporebudget.gov.sg/budget-speech/budget-statement/b-advance-our-refreshed-economic-strategy#Advance-Our-Refreshed-Economic-Strategy> (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

○シンガポール企業庁 (ESG)

<https://www.enterprisesg.gov.sg/grow-your-business/partner-with-singapore/innovation-and-startups/join-startup-sg>(最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.enterprisesg.gov.sg/grow-your-business/innovate-with-us/market-access-and-networks/global-innovation-alliance/overview> (最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.enterprisesg.gov.sg/grow-your-business/innovate-with-us/market-access-and-networks/global-innovation-alliance/gia/gia-tokyo>(最終検索日 2026 年 1 月 6 日)

<https://www.enterprisesg.gov.sg/Grow-Your-Business/innovate-with-us/market->

[access-and-networks/Global-Innovation-Alliance/cip-programmes](#) (最終検索日 2026年1月6日)

<https://www.b2match.com/e/joint-innovation-with-singapore-2024> (最終検索日 2026年1月6日)

○首相府

<https://www.pmo.gov.sg/newsroom/sm-tharman-shanmugaratnam-at-the-launch-of-the-jurong-innovation-district-masterplan-exhibition/> (最終検索日 2026年1月6日)

○経済開発庁 (EDB)

<https://www.edb.gov.sg/en/business-insights/insights/5-things-you-should-know-about-jurong-innovation-district.html> (最終検索日 2026年1月6日)

○Straight Times

<https://www.straitstimes.com/business/economy/singapore-start-ups-get-help-finding-partners-with-new-online-platform> (最終検索日 2026年1月6日)

○Startup SG Network

<https://www.startupsg.gov.sg/directory> (最終検索日 2026年1月6日)

○Startup SG Equity

<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4895/startup-sg-equity> (最終検索日 2026年1月6日)

<https://www.startupsg.gov.sg/programmes/4895/startup-sg-equity/eligibility> (最終検索日 2026年1月6日)

○ACE.SG

<https://ace.sg/stage-one> (最終検索日 2026年1月6日)

<https://ace.sg/about> (最終検索日 2026年1月6日)

○シンガポール貿易産業省 (MTI)

<https://www.mti.gov.sg/newsroom/opening-address-by-min-est-tan-see-leng-at-the-launch-of-stage-one-s-physical-campus/> (最終検索日 2026年1月6日)

○StageOne

<https://www.startupsg.gov.sg/stageone/page/set-up-and-incorporation/> (最終検索日 2026年1月6日)

<https://www.startupsg.gov.sg/stageone/page/capability-building/> (最終検索日 2026年1月6日)

<https://www.startupsg.gov.sg/stageone/page/market-access/> (最終検索日 2026年1月6日)

### 第3章

<参考ウェブサイト>

○シンガポール企業庁 (ESG)

<https://www.enterprisesg.gov.sg/resources/media-centre/news/2025/november/singapores-agri-tech-firms-find-fertile-ground> (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

<https://www.enterprisesg.gov.sg/resources/blog/diving-into-a-new-market-the-global-innovation-alliance-can-be-your-springboard> (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

○Startup SG

<https://www.startupsg.gov.sg/news/329101/empowering-farmers-improving-outcomes-changing-the-game-for-food-security> (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

<https://www.enterprisesg.gov.sg/resources/media-centre/news/2025/november/singapores-agri-tech-firms-find-fertile-ground> (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

○ALENA Pte Ltd.

<https://www.aliensg.com/news> (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

<https://www.aliensg.com/> (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

○経済開発庁 (EDB)

<https://www.edb.gov.sg/en/business-insights/insights/spore-adds-another-s440-million-in-investment-to-boost-growth-of-deep-tech-startups.html> (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

○ACKTEC Technologies

<https://www.acktechnologies.com/> (最終検索日 2026 年 2 月 12 日)

【執筆】

一般財団法人自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 坂本 智彦

【監修】

一般財団法人自治体国際化協会シンガポール事務所 所長 高野 一樹  
調査役 政安 郁恵